

年 表 (明治時代以降の主な事項)

明治元年 (一八六八)

国・道関係

九月⑧明治と改元、一世一元の制度を定める  
一〇月〇榎本武揚・大島圭介ら内浦湾鷺木に上陸、箱

館に向け進撃。②清水谷府知事箱館府庁を青森に移すことを各領事に通告して青森に退去。③脱走軍五稜郭に入城

一二月⑭脱走軍が蝦夷地全島を平定。○脱走軍が欧米諸国の例にならない投票によって総裁以下各奉行らを選挙

明治二年 (一八六九)

国・道関係

三月⑳東京遷都  
五月④函館の海戦が始まる。⑮五稜郭の脱走軍もついに降服  
六月④中納言鍋島直正が蝦夷開拓督務(総督)に任ぜられる。⑰諸侯版籍を奉還  
七月⑧官制改革により開拓使を置き箱館府を県と改

称。⑬開拓督務を開拓使長官と改める  
八月⑮蝦夷を北海道と改め一一か国八六郡に分ける。  
⑲金沢・鹿児島等九大藩に蝦夷地の支配地が給される。⑳東久世通禧が開拓使長官に任ぜられる  
九月⑳東久世長官ら函館に着任、開拓使出張所を開く。㉑函館県庁を廃して開拓使出張所と改称、施政の根拠を函館に置く

一月⑫島判官が札幌本府の地割をし官邸、仮本庁の建築に入る  
滝川関係  
八月⑮旧石狩場所を分け札幌・石狩・樺戸・空知・夕張・雨竜・上川の七郡を置く  
一〇月〇伊達英橋(邦直)・伊達勝三郎・亘理元太郎が空知を分領(明治四年八月開拓使に引渡し)

明治三年 (一八七〇)

国・道関係

一月㉗日の丸を国旗に制定  
二月⑬樺太開拓使が設置される  
四月〇銭函仮役所を小樽に移し石狩四郡及び後志国一〇郡を管轄す

五月⑨兵部大丞黒田清隆が開拓次官に任ぜられもっぱら樺太開拓使を管した  
九月〇平民に姓の使用許可。○東本願寺有珠く札幌間道路開さく着手  
閏一〇月⑨東京開拓使庁を廃止、函館出張所が本庁と

なり、東京に出張所が置かれた  
一月〇徴兵規則制定  
二月〇庶民の帯刀禁止  
滝川関係  
二月〇開拓使権少主典田中銳次郎、史生平田貞治、肥

塚貴正ら上川・空知両郡を檢分

五月⑨開拓使権少主典田中義信（銳次郎）ナエイから

ナイに至る地を伊達邦直に与える

明治四年（一八七二）

国・道関係

一月〇東京・京都・大阪間に郵便開設。〇黒田次官が洋行、開拓使留學生も派遣される

三月〇戸籍法公布

四月⑭東久世長官札幌に移り開拓いっさいの事務を統理。〇開拓使本庁竣工

五月〇開拓使庁を札幌に置く

六月⑮神社の制が定められ、札幌神社が創建されて国幣小社に列格。〇黒田次官がケプロンほか二名の雇外人を伴い、開拓に必要な器械種子等を購入して帰

朝

七月⑭廃藩置県の詔書が出され、全国が府県制となる。三府、三〇一県

八月⑧樺太開拓使を北海道開拓使に合併。⑳諸県並びに華士族、寺院等の北海道支配地を止め開拓使に属させる

九月〇陸軍少将桐野利秋北海道を巡視して帰京、屯田兵設置を建言する

一〇月⑧蝦夷人の開墾を進め、家具・農具を与え、男子の耳環、女子の入墨を禁止することを達した。

⑮東久世長官が侍従長に転任、黒田次官が長官を代行

一二月⑳ケプロンが黒田次官に北海道開拓に関する意見書を提出

一二月〇各府県の大廢合により三府七二県となる

滝川関係

一月〇札幌・空知・石狩の諸郡の原野土地に対し出願のうえ随意に開墾すべきことが達せられた

八月〇樺戸・雨竜・空知・夕張・上川・厚田の各郡が札幌本庁の直轄となる

明治五年（一八七三）

国・道関係

一月〇戸籍法作成

四月⑲開拓使庁管下の市在役人を廃し戸長別戸長を置く。〇東京・大阪間に電信開通。〇札幌で「御用火事」として約一五〇軒の草ぶき小屋を焼き払う。

〇開拓使顧問ケプロンの計画により、札幌・函館間の車道建設に着手

六月〇函館に郵便役所を置く

七月〇札幌郵便局を置く

八月③学制公布。⑥札幌に遷卒飯屯所及び分屯所を置く。〇農民間の身分制を禁止し、職業の自由を許可する

九月⑭札幌開拓使庁を札幌本庁と改め、函館・根室・宗谷・浦河・樺太の五支庁を置く

一〇月⑤各支庁主任を札幌に招集、札幌会議を開催

一二月⑨太陽曆を採用一二月三日を明治六年一月一日とする。〇ライマン、モンローの二人が地質鉦山の調査を開始

滝川関係

六月⑮開拓使使掌高畑利宜上川探検に出発（九月二一日帰着）

明治六年（一八七三）

国・道関係

一月⑩徴兵令発布。⑰黒田次官開拓施設方針上奏

二月⑧函館運上所を税関と改称。〇函館・青森間に定

期航路が開始された

三月○測量長ワトソンに全道三角測量を命ずる

七月<sup>20</sup>函館から森・室蘭を経て札幌に至る本道を札幌

本道と定める。道路竣工、経費八五万円

九月○新橋・横浜間に貨物列車が運転される。○測量

隊が石狩川の測量に着手

十一月<sup>11</sup>内務省の設置。<sup>24</sup>天皇、黒田次官・調所広

明治七年（一八七四）

国・道関係

一月○東京警視庁創設

二月<sup>15</sup>札幌本庁管内を大小区画に分ける（九大区）

○江藤新平らが佐賀に乱をおこす

四月<sup>4</sup>政府は台湾征討を開始。<sup>13</sup>島義勇が佐賀の乱に

連座して死刑となる。○ケプロンに屯田兵の設置場

所を選定させる

大・堀基らに宮中で樺太事情下問

一二月<sup>25</sup>黒田次官、屯田兵創設に関し建議。○郵便ハ

ガキ発行

この年、東京上野公園、大阪住吉公園が開設。○東

京銀座通りが煉瓦造りの洋風建築街となる。○ライ

マンが北海道の「地質測量報文」を提出。○広島村

中山久蔵が早熟性水稻赤毛を育成。○三井組札幌支

五月○紡織場の官設

六月<sup>23</sup>黒田次官が陸軍中将に任ぜられ屯田兵憲兵事務

総理となる

八月<sup>2</sup>黒田次官、参議兼開拓使長官に任ぜられる

○議院憲法、議院規則、医制発布

一〇月<sup>30</sup>屯田兵例則を設ける。○種痘規則制定

一二月○札幌電信局開設。函館・小樽・札幌間公事電

店が銀行業務を開始

滝川関係

一〇月<sup>7</sup>榎本武揚（釜次郎）イクシベツと空知川石炭

山を調査して石炭調査書を作成

この年、空知における最初の道路である幌内・幌内

太間道路が開通した

通信信開始

この年、大阪〜神戸間に鉄道開通

滝川関係

二月<sup>15</sup>空知郡小区全部は第八大区となる

七月<sup>3</sup>開拓使雇教師ライマン地質鉱物調査のため空知

川に到着

明治八年（一八七五）

国・道関係

一月○宮城・青森・酒田諸県の士族から屯田兵を募

集。○学令制定

二月○医術開業試験法発布。○蝦夷人の苗字使用許可

三月<sup>28</sup>開拓使顧問ケプロン満期帰国。<sup>15</sup>屯田事務局を

札幌本庁内に設置

四月○左右両院を廃して元老院、大審院を設置

五月<sup>7</sup>樺太・久里留（北千島）交換条約締結。○ライ

マンが幌内炭田地区を踏査、鉄道線を測量。○大教

院を廃し火葬禁止の令を解く

一二月<sup>28</sup>札幌のら卒屯所を巡查屯所と改称

この年、初めて屯田兵一九三戸を琴似村に移す。

○函館・小樽間に定期航路が開始される。○貨幣条例

（円 単位）が公布される。○仇討が厳禁となる。

○庶民に苗字をつけさせる。○樺太土人八五〇余人

を札幌郡対雁に移住させる

滝川関係

九月○高畑利宜、夕張・樺戸・空知三郡を調査

明治九年（一八七六）

国・道関係

一月<sup>14</sup>久留諸島の名を改めて「千島国」に編入  
 二月〇京都〜大阪間の鉄道開通  
 三月〇土族の廃刀令発布  
 四月〇官庁日曜全休、土曜半休制実施  
 五月〇強制種痘制を布く  
 八月<sup>14</sup>札幌学校を農学校と改称。アメリカからクラーク博士招へい

九月<sup>8</sup>北海道大小区画を改定、三〇大区一一六小区とする。<sup>②</sup>巡查屯所を警察署と改称  
 一〇月〇熊本神風連の乱、続いて秋月、萩の乱が起こる  
 十一月〇北海道の三角測量中止  
 一二月〇開拓使が「ストロップの使用」を人民一般に諭達  
 この年、家禄、賞典禄を廃止し、金禄公債証書発行条例を制定する

道川関係

六月<sup>13</sup>開拓使大判官松本十郎、奥地探検の途中空知太に一泊、乙名セッカウシ道案内として同行  
 八月<sup>7</sup>長官黒田清隆、空知炭山を視察  
 九月<sup>8</sup>石狩国上川・樺戸・雨竜・空知・夕張各郡は第二大区三小区となる

明治一〇年（一八七七）

国・道関係

一月<sup>22</sup>大判官以下の官制を廃し、大書記以下を定める  
 二月<sup>15</sup>西南の役が起こる  
 四月<sup>10</sup>屯田兵第一大隊が西南の役に出征。〇クラーク博士が帰国の途につく。〇開成、医学の二校を合併

して「東京大学」と称す  
 六月〇札幌本庁管内一七教育所を学校と改称  
 九月〇西南の役が政府の勝利に帰し屯田兵帰還。〇沿海線及び三角測量図完成  
 この年、万国郵便条約に加入。佐野常民らが戦死病

院博愛社（日本赤十字社）をつくる。電話器が渡来する。北海道地券条例制定。道内五か所に缶詰工場が創設される。道内コレラ流行（一一月まで）  
 一二月<sup>28</sup>屯田予備兵条例制定

明治一一年（一八七八）

国・道関係

一月<sup>7</sup>北海道最初の新聞「函館新聞」創刊  
 二月〇北海道国郡全図が完成。〇屯田兵給与地一戸五、〇〇〇坪を一〇、〇〇〇坪に変更  
 三月〇東京府会（府県会の最初）開催。<sup>⑤</sup>東京中央電

信局の開所祝賀会に始めて電灯がともされた  
 六月〇開拓使が総代人選挙法、総代人心得法を定めた  
 七月〇屯田兵給与地一二、〇〇〇坪に改正。<sup>②</sup>郡区町村編成法公布  
 一一月<sup>4</sup>蝦夷人を旧土人と称させる

一二月〇永山武四郎、屯田兵総理となる。〇米人クロホルドを鉄道建築顧問とした  
 この年、日本に蓄音器が渡来した

明治一二年（一八七九）

国・道関係

一月⑬札幌本庁が焼失  
三月⑤空知郡幌内に泥炭開拓事務係出張所設置  
四月⑧陸軍改良係を札幌に置きロシアから携えた糧・荷馬車を模造して普及。○琉球藩を廃して沖縄県を置く  
七月⑩大小区画を廃し郡区町村編成法発布

八月○クロホルドが幌内鉄道布設について調査し、幌内鉄道を幌内へ手宮間にするを建言した  
十一月⑧函館小学教科伝習所を函館師範学校と改称。  
○小樽へ銭函間の車道竣工。○新聞の街頭販売が禁じられる  
一二月○幌内炭山が開坑された  
この年、郡区町村編成法が施行され、区には区長、

町には町長、村には戸長を置くこととなる  
**滝川関係**  
七月⑩石狩ほか七郡（厚田・浜益・上川・樺戸・雨竜・空知・夕張）を定め役所を石狩に置く（翌一三年三月開庁）

明治一三年（一八八〇）

国・道関係

一月⑧手宮へ幌内間鉄道布設着工  
三月○太政官に会計検査院が設置される  
五月⑪海賀直常ほか四名集治監用地選定のためシベツ

（月形）探検を行う  
七月○郡、区役所及び戸長役場に総代人を置く。○伝染病予防規則が制定される  
八月⑫蝗が十勝に発生し、石狩・胆振に飛来被害甚大

一二月⑫札幌本庁蝗駆除施行順序法発布。⑫手宮へ札幌間鉄道開通、運転式（義経・弁慶号）

明治一四年（一八八一）

国・道関係

一月○陸軍内に憲兵が置かれる  
二月○屯田予備兵廃止  
六月○札幌へ野幌間鉄道工事着手

八月⑩樺戸集治監を月形村に設置。内務省直轄九月三日開庁。○函館港楽三商会支店を月形に設置、集治監用達をする  
一〇月⑥函館に控訴裁判所を置く（一五年一月施行）。

○我が国最初の政党、自由党が成立し板垣退助が総理になる  
一二月○札幌へ野幌間鉄道開通

明治一五年（一八八二）

国・道関係

一月④軍人勅諭渙発。⑪黒田長官内閣顧問に転任。農

商務卿参議西郷従道開拓使長官兼任  
二月⑧開拓使を廃し函館・札幌・根室の三県を置く。

⑧屯田兵事務を陸軍省に移す  
三月⑩本道兵備を暫時第二軍管々区に編入

<p>四月⑭創成学校を県立として校内に仮師範学校を設置 六月⑮空知集治監を市来知村に設置（七月五日開庁）。 ⑳札幌と根室に始審裁判所設置。㉑札幌〜江別間鉄</p>	<p>道工事竣工、仮営業開始 七月〇会計検査院長岩村通俊が本道巡視。○鉄道管理局を札幌に置く</p>	<p>十一月⑫野幌〜幌内間鉄道開通。⑬札幌〜幌内間運輸営業開始</p>
---	--	-------------------------------------

明治一六年（一八八三）

<p>国・道関係 一月㉒農商務省、北海道事業管理局を置く。○郵便料金均一制となる。○全国各地コレラ発生 三月〇駅通編制法を定め北海道を札幌・函館・根室の三駅通区とする</p>	<p>四月〇陸軍大学校創設される。○新聞紙条例が改正される 七月②官報創刊 九月⑫札幌〜幌内間停車場に電話開通。手宮〜幌内間電信線を電話線に切りかえる（道電話のはじめ）。</p>	<p>⑰手宮〜幌内間鉄道開通式を札幌で挙行 滝川関係 九月③監獄付属樺戸丸で桜木樺戸副典獄、海賀直常ら月形から石狩川を上り地形・水利調査</p>
---	---	--

明治一七年（一八八四）

<p>国・道関係 一月〇官吏恩給令が定められる 二月〇八北海道志▽が出版される 三月①郡区町村編成法実施、札幌市街だけを札幌区と改定、札幌区役所設置 五月〇屯田兵が江別村に入植</p>	<p>六月〇上野駅開業 一月⑥空知郡に岩見沢村を設置。○札幌〜根室間に電信が開通 滝川関係 四月①札幌ほか五郡役所設置。札幌・夕張・空知・樺戸・雨竜・上川の各郡を管轄</p>	<p>八月〇内務属高橋不二雄、北海道地図作製のため石狩川水源を測量 一〇月⑦樺戸集治監典獄月形潔、上川郡巡回視察、石狩川沿岸調査</p>
--	---	--

明治一八年（一八八五）

<p>国・道関係 二月〇東京から函館・札幌・根室に達する路線を国道と定める 五月⑦屯田事務局を屯田兵本部と改める。⑳陸軍少将永山武四郎屯田兵本部長に任ぜられる</p>	<p>八月④太政官大書記官金子堅太郎三県巡視して北海道三県巡視復命書を提出。○岩村通俊・永山武四郎ら上川を視察す 九月⑫釧路集治監設置 一二月㉓太政官制廃止。内閣制度実施。伊藤博文、初</p>	<p>代内閣総理大臣となる この年、○日本銀行で初めて兌換券を発行。○電信為替、小為替制度が施行される。○対雁のアイヌ人全員を石狩に移転させる</p>
---	--	---

明治一九年（一八八六）

国・道関係

一月<sup>28</sup>三県及び北海道事業管理局を廃して北海道庁を置き、司法大輔岩村通俊が道庁長官となる。○道庁官制を定め長官・理事官・属及び警察官・監獄官・技術官・学務官を置く。○道庁の機構は庶務・租税・勸業・土木・会計の五課とした

二月○小学校教則改正、一か年を一学期として八学期をもって全学期とする。○札幌農学校を道庁所管とする

三月<sup>1</sup>北海道庁及び函館・根室二支庁開庁

四月<sup>1</sup>会計年度を四月一日から翌年三月三十一日までと改める。○帝国大学令・師範学校令・中学校令・小学校令が公布される。○第一から第五高等中学校が

新たに命名される

五月○小学校学科及び程度を規定、尋常及び高等小学校修業年限を各四か年、学科は修身・読方・作文・習字・算術・体操。○国産鉛筆が製造される

六月<sup>29</sup>北海道土地払下規則を定める。○日本薬局法が制定される

八月○炭礦鉄道事務所事業中、幌内炭山採掘事業の一部を九月以後は空知集治監に処理させることとする

九月<sup>17</sup>札幌及び函館の県立師範学校を廃止し北海道師範学校を置く。札幌は本校、函館は分校とする（二

○年四月師範学校令により北海道尋常師範学校と改称）

十一月<sup>28</sup>道庁官制改正、四部制として支庁廃止

この年、コレラ・天然痘流行死亡者多数

滝川関係

五月○高畑利宜、空知太・忠別太間仮道路開さくのため空知太に草小屋を作り測量に従事。⑬空知郡市来知から上川郡忠別太に至る上川仮新道起工

六月<sup>22</sup>空知川渡舟私設を許可、山形県人三浦米蔵出願

⑭空知太・忠別太間仮道路竣工

八月<sup>20</sup>空知太・市来知間仮道路竣工

一二月<sup>14</sup>空知川渡舟結水中休業

この年、三浦米蔵が南空知太に共同墓地設置を出願

認可（五町歩）

明治二〇年（一八八七）

国・道関係

一月<sup>4</sup>集治監を監獄署と改称。○郡区役所と警察署の管轄区域を同一にし、各都役所に警察署を置く

四月<sup>1</sup>炭礦鉄道事務を廃し幌内炭礦事務は空知監獄署に、鉄道事務は北海道鉄道事務所に所属させる。○道庁約束郵便規則制定、為替貯金事務を開始

五月○月形く峰延間道路開さく着工（九月四日竣工）

○樺戸監獄署の囚人を使役し上川道路を改修（二二九年九月竣工）

一〇月○岩村長官が上川に出張

一二月○札幌麦酒会社設立

この年、天然痘流行。大倉組業三商會が石狩川線運

送業を開始

滝川関係

六月○三浦米蔵、南空知太で旅人宿開業。⑯樺戸監獄署は空知太派出所を空知川派出所、忠警（忠別とも書かれた。）は必ず「警」の字を使用するように指示

明治二一年（一八八八）

国・道関係

二月○グリニッチ標準時採用。○市制・町村制が公布

される

四月⑩黒田清隆内閣成立。○町村医設置規則公布  
 六月④市来知く空知太間一里道路改修着工。⑮岩村長官が元老院議長に転任。屯田兵本部長陸軍少将永山武四郎が道庁長官を兼務。○札幌・石狩間に電信通信開始  
 八月⑫市来知く空知太間道路改修工事竣工  
 一〇月〇山鼻兵村に兵村会を設ける（町村自治会のはじめ）

明治三二年（一八八九）

国・道関係

二月⑪大日本帝国憲法・皇室典範・議院法・衆議院議員法・貴族院令の公布  
 三月〇石狩川汽船会社が月形村に設置される（三〇年廃止となる）。⑳鹿猟禁止。○土地台帳規則公布  
 四月⑬岩見沢村人馬車継立所設置  
 六月⑲忠別く網走間仮新道開さく  
 七月⑱道庁技師福土成豊、石狩川水路保護上申書提出。㉑屯田兵条例改正、屯田兵本部を屯田兵司令部と改称、永山本部長が司令官となる  
 八月〇石狩川航運の汽船上川丸、曳船春風丸竣工試航。○北海道電灯会社が札幌に創設  
 一〇月⑫黒田内閣総辞職、三条実美内閣成立  
 一二月⑭永山長官、上川離宮予定地設定の儀を内閣に

具申。⑱北海道炭礦鉄道会社設立、社長に堀基官選  
 一二月⑲内閣更迭内相山県有朋は総理大臣、岩村通俊は通信大臣となる  
 滝川関係  
 一月⑲空知・夕張郡役所を市来知村に設置、札幌ほか五郡役所の管轄を割き樺戸・雨竜・上川郡役所を月形村に置く、石狩ほか二郡役所並びに勇払ほか二郡役所のうち千歳郡を札幌郡役所に併合  
 三月⑯忠別太・音江法華・空知太・奈井江の四駅通休泊所の設置認可  
 八月⑮空知太駅通開業  
 九月⑨高畑利宜、空知太に酒造業を営む。○空知太・忠別太間、岩見沢・空知太間道路改修工事竣工、全通。㉒空知太屯田入植募集を官報に登載される

一二月〇北海道庁長官号外訓令をもって空知郡空知太へ二中隊に要する工事負担を樺戸集治監に令達、工事着手  
 この年、浄土宗札幌新善光寺が南空知太に仮堂建立し布教を始める（運海寺の前身）。石狩川五九号渡船（中島町）開設（昭和二五年九月廃止）

一〇月⑦空知太・忠別太間電話線架設着手（一二月二日竣工）。⑰市来知・空知太間電話線架設着手（一二月九日竣工）  
 一二月⑥⑱大和国十津川郷民六〇〇戸二、四八九人（注―新十津川町史）罹災により移住、空知太に着。⑨告示第四九号空知太市街見込地宅地私下告示。⑫農商課滝川出張所に電話を架設（市来知・空知太間）。○札幌病院空知太派出所設置  
 一二月⑤杉本勇治物資供給の任を帯びて大和から移住。⑩空知太屯田兵第五大隊第一中隊設置。屯田兵九二名入隊式執行。○浄土宗札幌新善光寺役僧高木秀道を空知太墓地管理人として迎える

一〇月⑦空知太・忠別太間電話線架設着手（一二月二日竣工）。⑰市来知・空知太間電話線架設着手（一二月九日竣工）  
 一二月⑥⑱大和国十津川郷民六〇〇戸二、四八九人（注―新十津川町史）罹災により移住、空知太に着。⑨告示第四九号空知太市街見込地宅地私下告示。⑫農商課滝川出張所に電話を架設（市来知・空知太間）。○札幌病院空知太派出所設置  
 一二月⑤杉本勇治物資供給の任を帯びて大和から移住。⑩空知太屯田兵第五大隊第一中隊設置。屯田兵九二名入隊式執行。○浄土宗札幌新善光寺役僧高木秀道を空知太墓地管理人として迎える

明治三年（一八九〇）

国・道関係

一月〇本道を除き衆議院議員選挙法公布  
四月〇道庁が屯田兵に関する経費予算を陸軍省に移管  
七月⑧北海道庁官制改正、総理大臣直属の長官を内務大臣に直属。⑨樺戸・空知の両監獄署を集治監と改称

八月〇屯田兵条例改正、屯田兵を歩、騎、砲、工兵とし、その服役は現役三年、予備役四年、後備役一三年計二〇年とする  
九月〇屯田兵給与地一戸一〇、〇〇〇坪を二五、〇〇〇坪、下士は二〇、〇〇〇坪

一〇月⑩教育勅語発布。〇元老院が廃止となる  
十一月〇第一回帝国議会開会

滝川関係

一月⑪真宗大谷派説教所設立認可（願成寺前身）。⑫北海道庁令第一号をもって滝川村を設置。⑬滝川村戸長役場設置（庁令第二号）。⑭朝日正道真宗本願

明治二年（一八九一）

国・道関係

二月〇道内各地有志が上京し貴・衆両院に自治制施行、道議会設立、帝国議会議員選出、北海道事業費増加等の請願書を提出  
四月①屯田兵司令官は天皇に直属となる。②府県制・

寺派説教所設立（光暁寺の前身）

二月⑭滝川郵便局長に伊津伝兵衛就任。⑮更谷喜延初代戸長に就任  
三月①空知太に滝川郵便局設置。〇空知太に設置の農商課派出所を廃し、新十津川村戸長役場に移す  
四月①空知通北一丁目戸長役場仮庁舎設置。空知警察署空知太巡査駐在所設置。〇空知太に設置の札幌病院派出所を廃止

五月③第五大隊第一中隊仮細則を定め一二日から施行。⑯大隊長・副官任命。〇石狩川汽船会社新波止場出張所設置。〇滝の川西二丁目から上徳富への渡船開設  
六月⑮十津川移民団新十津川村字徳富に移る。⑯第五大隊本部を設置。同月二五日開庁  
七月⑦六月三〇日以来、屯田兵三四八戸移住（四四〇戸）、第一中隊、第二中隊を編成。⑰郵便貯金・為替取扱開始

八月①御料局札幌支庁空知出張所を開設、空知・夕張・雨竜・上川の四郡を管轄、御料局札幌支庁滝川出張所設置。⑰道庁令第四六号をもって奈江村が設置される。この区域に滝川村の一部が割かれた。⑱道庁令第四八号をもって奈江村を滝川村戸長役場の管轄とする  
九月⑩滝川衛生組合組織  
一〇月⑦屯田兵村地区に字名を設ける。⑳戸長更谷喜延退職。二代目戸長多田寛就任。〇炭礦鉄道会社が空知炭山を開坑  
十一月③神靈遙拝所を二の坂に建立、祭典を執行、滝川神社の前身  
一二月⑤兵村に私立南小学校、同北小学校開校  
この年、〇春に㊲今井支店開業。〇空知太市街地に多田五市を教師として私設教育場開設（二六年三月廃止）。滝川村則制定

五月⑥山県首相辞職、蔵相松方正義首相を兼任  
六月⑮永山長官の兼任を解き滋賀県知事渡辺千秋が道庁長官となる。〇札幌に屯田銀行設立営業開始  
七月⑳内務省告示第三五号により北海道集治監制を定

郡制実施

郡制実施  
五月⑥山県首相辞職、蔵相松方正義首相を兼任  
六月⑮永山長官の兼任を解き滋賀県知事渡辺千秋が道庁長官となる。〇札幌に屯田銀行設立営業開始  
七月⑳内務省告示第三五号により北海道集治監制を定

め樺戸を本監、空知・釧路・網走を分監とする。〇上川・網走間道路竣工  
九月〇東京く青森間（東北本線）鉄道開通  
十一月⑦北海道電灯会社営業開始、札幌に道内はじめての電灯点灯

滝川関係

一月⑫戸長多田寛退職、三代目戸長佐々木篤敬就任  
 三月⑬軽川で本兵村兵員初の演習。○石狩川汽船航運を江別樺戸間から空知太に延長。⑭樺戸・雨竜・上川郡役所及び空知・夕張郡役所を札幌ほか四郡役所に併合。⑮空知警察署空知太巡查駐在所を札幌警察署市来知分署滝川村巡查駐在所と改称

四月①屯田兵配備表改正により第五大隊第一中隊、第二中隊は第二大隊第三中隊、第四中隊と改称  
 五月○屯田兵佐藤竹蔵水田を造り試作を行う  
 七月①空知太墓地管理事務を取扱う。⑤有限責任北海道炭礦鉄道会社、岩見沢、砂川間、砂川、歌志内間開通。⑬屯田兵移住記念祭を執行、この日と一二月三日を毎年例祭日と定める。⑯御料局札幌支庁管内

において滝川ほか三か所に出張所を新設  
 九月⑩衛生組合規約書を定め組合設立を戸長に申請  
 十一月⑭札幌から増毛に至る電信線空知太を経て全線竣工(七月測量、九月一三日起工)。○兵村連合会議を開き南北両小学校合併計画  
 この年、兵村で林檎植樹を始める。市街地に警鐘台設置

明治二五年(一八九二)

国・道関係

一月⑭幌内炭山ガス爆発  
 四月○高島嘉右衛門、北海道炭礦鉄道会社社長となる  
 七月⑯渡辺長官転任、内務次官北垣国道道庁長官に任ぜられる  
 八月⑧松方内閣総辞職、第二次伊藤内閣成立。○札幌測候所はじめて地方天気予報を実施  
 十一月○炭礦鉄道会社夕張線開業  
 一二月○道庁が団体移住に関する要領を定め各府県知事に照会

滝川関係

一月⑫令第一号により境界更正「空知郡滝川村、南ハ空知川、北ハナイタクベ川、西ハ石狩川ヲ界トス」  
 ⑰藤川光太郎兄弟製糸を試み事業の拡張を図る  
 二月①炭礦鉄道、砂川・空知太間開通、岩見沢から空知太までの空知線開通  
 三月①滝川、永山間の郵便線路開始  
 四月○総代人公選される  
 六月⑥共成株式会社滝川支店開設  
 七月⑫日蓮宗布教所創立(現日勝寺)(明治二八年一

一月一三日説教所設立認可)

一〇月○屯田兵石丸辰吉この年水稲試作を行い一反五畝を耕作し粳一石八斗を収穫  
 十一月③南北両小学校併合、二の坂に校舎新築私立滝川小学校開校式挙行(一〇月二九日竣工)。⑩屯田兵月形・当別・江別へ三泊行軍  
 一二月⑮戸長佐々木篤敬退職、四代目戸長高田直一郎就任

明治二六年(一八九三)

国・道関係

一月○夕張炭山坑夫四〇〇余名が暴動を起こす  
 二月○道庁度量衡取締規則を定める。○青森、室蘭間航路が開始  
 三月○弁護士法が公布される

四月○日本赤十字社札幌支部設置(五月五日北海道支部と改称)。○札幌郡上白石村に「稲作試験場」設置される  
 八月○国歌「君が代」公定(文部省告示)  
 一〇月○北海道炭礦鉄道会社が北海道炭礦鉄道株式会

社と改称する

一一月○札幌神社官幣中社に列格  
 滝川関係  
 二月⑫滝川郵便局小包郵便事務取扱開始  
 三月⑫滝川郵便局電信事務開始。⑫屯田兵苦小牧で春

季機動演習（二五日まで）

五月〇炭礦鉄道会社、空知太・上川間の鉄道測量に着手（七月終了）

一〇月⑥告示第六七号により滝川村に「滝ノ川」と「ユーベオツ」の字を置く。⑮滝川・旭川間の道庁架設線路を譲受け修築郵便局に引込電話の開始に備

明治二七年（一八九四）

国・道関係

二月〇囚徒による採炭を廃止する

四月①札幌農学校文部省直轄となる

五月〇井上内相北海道に関する意見書を草し建議

八月①日清戦役宣戦布告

一〇月⑬北海道を第七師団管区と定める

十一月⑨勅令第一五号消防組規則が公布。⑫北海民灯

日刊となり小樽新聞と改題。〇屯田兵条例改正、現役八年後備役一二年、また屯田兵移住給与規則改正

滝川関係

一月②四代目戸長高田直一郎退職、五代目戸長月居忠

清就任

三月②滝川村総代人補欠選挙実施

明治二八年（一八九五）

国・道関係

三月④臨時第七師団編成、屯田兵充員召集

える（一二里二四町五七間一尺）。⑳広部弥三吉酒造

業を始め「銘酒空知川」を出す。㉑外村義郎キリスト教伝道に従事（明治二八年六月講義所新築）

一〇月⑨南兵村小学校校舎を空知太に移し、公立空知尋常小学校創立（第一小学校の前身）

一二月②滝川・旭川間修築線を月形・滝川両局の回線

四月①滝川村字ユーベオツに第二大隊第五・第六中隊設置。㉒道庁地理課滝川派出所を設置。〇近藤豊が

燐寸軸木「三光社製軸所」を創立

五月⑤一七日までに江部乙屯田歩兵四〇〇戸移住入

植。⑬江部乙屯田入隊式挙行。⑳滝川村の道庁地理

課派出所にて空知・樺戸・雨竜・上川四郡に属する土地事務を取扱わせる。〇江部乙に真宗本願寺派説

教所創設（光明寺）

㉑広小路九丁目に蓮海寺建立（浄土宗玄超山）。〇石

田安一郎、九丁目に二畝歩の水稲試作

七月⑬江部乙に仮教場設置、一八日授業開始。〇江部

乙兵村に馬匹一八頭導入（軍用馬八頭農耕馬一〇

頭）

四月①函館尋常中学校開校。⑮清国と平和条約成立

六月①札幌尋常中学校開校。㉒臨時第七師団解隊帰郷

として現字機各一基装置

この年、高橋豊吉筋違通り（現本町）に「滝川座」を創設。高畑宜一、石狩川沿岸六居人種遺跡の実地調査（夏）を行う

八月〇空知太駅通を後藤半七に譲渡

九月⑨江部乙神社創設

一〇月〇高畑宜一実地踏査の石狩川沿岸六居人種遺跡

調査報告が東京人類学会誌で発表。⑫公立滝川北尋常小学校認可（一月二四日開校式）

一月〇高畑利宜酒造場を札幌区後藤半七に譲渡（代人、今百太郎）。〇屯田兵現役八か年に延長

一二月③御料局札幌支庁管内滝川出張所を廃止

この年、二葉栄三郎が滝川初の味噌・醤油醸造業を始める。〇私立滝川消防組結成。〇江部乙屯田への

物資販売指定として㉓石丸商店開業（江部乙）

一〇月〇大日本武徳会北海道支部道庁警察部内に設置

一二月〇札幌に北海道尚武会の結成

滝川関係

一月①私立を公立滝川尋常高等小学校と改称し、高等科四年併置。②空知太市街予定地の区域を変更

三月④屯田兵日清戦役に応召出發、決死の木標建設。

⑧札幌警察署滝川分署を設置、屯田兵屋を移転増築して庁舎とする（元市来知分署滝川村巡査駐在所）。

○伏古渡船場開設

明治二十九年（一八九六）

国・道関係

一月①渡島・後志・胆振・石狩の四国に徴兵令施行

三月②札幌・函館・根室・十勝に連隊区司令部を置く。○近衛師団が設置される

四月③北垣長官拓務次官に転任、後任に福島県知事原保太郎道庁長官就任

五月④第七師団を札幌に置き屯田兵の事も合せ管掌、中将永山武四郎師団長に補される。④北海道鉄道敷設法発布

八月⑤皆既日食、天文台長寺尾寿・トット（米）・ドランドル（仏）ら枝幸で観測

九月⑥伊藤内閣総辞職し、第二次松方内閣成立

十二月①月寒に歩・砲・工兵野戦独立隊を置き屯田兵

明治三〇年（一八九七）

国・道関係

五月①江部乙地区荖果（りんご）の苗木を共同購入して植栽

六月②屯田兵帰隊。⑧告示第七一号をもって滝川村はか一村戸長役場に浦役場を設置。⑮日本基督教滝川講義所の前身落成（空知太七九番地）。⑯告示第七四号をもって空知郡滝川村ほか一村戸長役場から奈江村戸長役場が分離。⑳江部乙第五・第六中隊を第一

司令部を第七師団司令部と改称

滝川関係

一月①告示第一三三号をもって地理課滝川派出所を殖民課滝川派出所と改称

二月①滝川登記所を戸長役場内に開設

五月②滝川村総代人補欠選挙会。①浄土宗玄超山運海寺号公称。○空知太駅前上川街道地点から平岸に至る空知川沿岸道路工事着手（十一月竣工）。○日清戦役屯田兵に賞賜、江部乙屯田兵は御下賜金三〇〇円のうち半額を小学校基金財産として蓄積

六月③札幌外九郡役所を割き夕張外四郡（空知・雨竜・樺戸・上川）役所を岩見沢に置く（七月一日開庁）。⑭札幌警察署滝川分署が岩見沢警察署滝川分

三月⑦北海道国有未開地処分法発布四月一日施行

・第二中隊と改称。○滝川倉庫創立

九月⑤国木田独歩三浦屋に少憩。⑦滝川村総代人選挙会。○空知川護岸工事着工

十二月⑦滝川兵村農会発足

この年、滝川村役場庁舎新築。一の坂の神社境内付近の湧水を本通に飲料水として引水

署となる。②空知太へ旭川間鉄道起工。○江部乙屯田兵後備役公有財産取扱委員会規則制定。同兵村監視を置く。同兵村組合会が生れる

九月⑧ムム・江部乙間道路開さく着工（一〇月竣工）

一〇月⑨戸長月居忠清退職、六代目戸長乾宣就任。

⑮遊郭地新通望月川を境として一丁四方を払下げ許可

十一月⑩滝川郵便局舎を楓通北三丁目に移転。⑲新嘗祭供御穀本道進献者として滝川の森友弥一郎（正）、橋本年松（副）選定精粟献納

一二月⑪公立滝川北尋常高等小学校を公立北辰尋常高等小学校と改称（六学級）

四月①札幌・函館・根室に税務管理局開庁。⑮空知は

か四郡役所を割き、上川郡役所を旭川に設置

五月<sup>29</sup>北海道区制、同一級町村制を定める（区制は三

〇年一〇月一日より一級町村制は三一年一月一日施

行と定めたが区制は三二年一〇月一日、町村制は三

三年七月一日施行）

六月〇日本体育北海道支会を札幌に置く、永山師団長

会長を兼任

九月<sup>2</sup>拓殖務省を廃し内務省に北海道局を置く。④原

長官非職、安場保和道庁長官に就任

一〇月<sup>31</sup>道庁官制改正、郡役所を廃し一九支庁を置く

（一二月一日開庁）

明治三十一年（一八九八）

国・道関係

一月<sup>1</sup>天塩・北見・日高・十勝・釧路・根室・千島の

七国に徴兵令施行。⑫松方内閣総辞職、第三次伊藤

内閣成立

六月<sup>30</sup>伊藤内閣総辞職、大隈重信内閣成立最初の政党

内閣

七月<sup>16</sup>安場長官免官、杉田定一道庁長官に就任

八月<sup>23</sup>上川線鉄道開通式協賛会札幌支部園遊会を札幌

中島公園に開き、翌二四日小樽で同会小樽支部祝賀

会を開く

九月<sup>8</sup>七日以来の暴風雨で未曾有の洪水となり道内各

地被害甚大、死者二四八人に達する

この年、金本位制を実施。全道に天然痘流行死亡二

九八人に達する

滝川関係

二月〇楓通北三丁目に説教所建立（現興禪寺）。〇新通

南一丁目に遊廓移転開業

三月〇屯田兵軍医大竹康造官を辞して広小路に医院開

業

四月<sup>1</sup>滝川屯田兵ごとく後備役に編入

七月<sup>1</sup>道庁令第一四二号をもって歌志内村・富良野村

設置。⑭戸長乾宣退職。⑮七代目戸長高田直一郎

就任

一〇月<sup>20</sup>道庁に北海道治水調査会設置。〇内務省官制

改正、北海道局廃止

十一月<sup>8</sup>大隈内閣総辞職し、第二次山県内閣成立。

⑫杉田長官免官、園田安賢長官に就任。〇西郷隆盛

の銅像が上野公園に建つ

この年、万国郵便条約に調印。東京と大阪間に長距

離電話開通

滝川関係

二月<sup>25</sup>空知小学校に高等科（二年）併置認可

四月<sup>1</sup>空知小学校を公立空知尋常高等小学校と改称。

⑮戸長高田直一郎退職、八代目戸長に小華和貞男就

任。〇田垣勘二郎宅を講元として天理教布教

五月〇滝川駅機関庫設置。〇滝川演武館を一の坂に設立

八月〇神靈遙拝所移転問題で、一の坂及び明神通りに

同型の社殿を建立し遙拝所とし、結局二の坂は滝川

神社建立となる。〇安部磯雄、片山潜米村演説会開

催

九月〇本通り五丁目に消防番屋を建設、公立滝川消防

組が結成。〇江部乙神社改築

一〇月〇屯田兵憲兵屯所設置

一二月<sup>31</sup>殖民課滝川・十勝の両派出所を廃止。〇中西

龜太郎、燐寸製軸所開設

この年、滝川市街地区の道路に通り名をつけて位置

を示す

七月<sup>15</sup>空知太駅から旭川まで上川線鉄道開通。⑯空知

太駅を移転滝川駅と改称して営業を開始。江部乙駅

が西一〇丁目と一一丁目の中間に設置される。⑰滝

川保線区設置

八月<sup>8</sup>高畑利宜、高畑運送組創立

九月<sup>7</sup>⑧石狩川・空知川氾濫（空知川本流が変わり

赤平沼ができる。現滝川公園池）被害甚大。⑱公立

滝川小学校全焼

一〇月<sup>1</sup>滝川鉄工組合第二九支部創立（片山潜の来

村）。〇侍従片岡利和男被害状況視察

一二月<sup>30</sup>九月洪水罹災者に御下賜金

一二月〇日蓮宗説教所、楓通りに再建移転

明治三十二年（一八九九）

国・道関係

二月②不動産登記法が制定（五月一二日施行）  
 三月①北海道旧土人保護法公布、教育及び共有財産の管理等に関することを規定。③北海道拓殖銀行法公布  
 五月〇石狩川治水調査を開始  
 七月〇札幌神社の社格が官幣大社に昇格。〇札幌電話交換局が設置される  
 一〇月①札幌・函館・小樽に北海道区制施行  
 一二月①歩兵第二五連隊、第二八連隊を月寒に置く

この年、万国平和会議条約に調印  
 滝川関係

一月①江部乙普通三等郵便局設置認可  
 三月③戸長小華和貞男退職。④九代目戸長高田直一郎就任  
 四月①登記所を廃止して札幌区裁判所滝川出張所を一の坂に開設（登記事務のみ取扱い）  
 五月⑩庁令第一一五号により歌志内ほか一か村戸長役場所轄を割き富良野戸長役場を置く。⑦音江を分村（道庁令第一四二号をもって）

六月⑩願成寺寺号公称。⑭滝川小学校建築再建認可  
 八月①滝川小学校新校舎落成。〇滝川村衛生組合設立。⑲光明寺寺号公称  
 九月②二四日まで開村一〇年記念祭典挙行  
 一〇月⑱戸長高田直一郎退職。⑳一〇代目戸長石沢竜治就任

この年、南外吉空知太に廻送業を開業（四二年に廃業）

明治三十三年（一九〇〇）

国・道関係

一月①屯田銀行が北海道商業銀行と改称  
 二月①北海道拓殖銀行創立（四月二日開業）  
 三月③産業組合法公布。⑦未成年者喫煙禁止法公布。  
 ⑧衆議院議員選挙法改正、北海道に初めて六選挙区を置く  
 四月②園田長官拓殖一〇か年計画案を提出（更正のうえ七月一〇日再提出）。②函館に要塞司令部を置き第七師団に属する。⑤永山師団長休職。中将大迫尚敏第七師団長に補される

六月⑮北清事変ぼっ発、出兵決定

八月①十勝線上富良野、下富良野（後の富良野）間開通  
 九月⑮夕張炭山坑夫同盟罷業。⑮伊藤博文立憲政友会結成  
 一〇月①私設鉄道法施行。⑲山県内閣辞職、第四次伊藤内閣成立  
 一二月②歩兵第二五連隊、第二八連隊に軍旗下賜この年、北海道農會設立。屯田兵募集中止。第七師団旭川に移る

滝川関係

一月②道庁告示一九号により正式な名称と丁目になる  
 二月⑤空知小学校に高等科（四年）変更認可。⑤滝川村農會創立  
 三月〇石狩川橋鉄橋架橋着工  
 五月①札幌貯蓄銀行滝川代理店設置  
 六月①庁令第一九一号により芦別村が歌志内村から分村。⑩真宗大谷派願成寺寺号公称  
 一二月⑦天理教滝川出張所認可

明治三四年（一九〇一）

国・道関係

二月①京浜電気鉄道開通  
 三月②北海道会法、北海道地方費法発布。③道会議員選挙令、北海道地方費令公布  
 四月①屯田歩兵第二大隊及び騎・砲・工兵の各隊解散。  
 ①道庁一〇年計画により政務執行  
 五月②北海道で農業者の設立する産業組合に関する施行組合細則を定める  
 六月②伊藤内閣総辞職、桂太郎内閣成立  
 八月③札幌市内発行の日刊三紙合併北海道タイムス初号発刊。⑩第一回道会議員選挙

九月⑨糸屋銀行（本店京都府）旭川支店開業

一〇月⑤第一回通常道会開会。○屯田兵の服務年限現役五年、後備役一五年に改正  
 十一月①愛国婦人会北海道支部を札幌に置く  
 一二月③日本赤十字社条例公布  
**滝川関係**  
 一月①江部乙で天理教布教開始（現北陽分会宣教会）  
 二月①札幌区から旭川区裁判所滝川出張所となる  
 三月③江部乙屯田兵現役満了、後備役に編入され第二大隊解除  
 四月②戸長石沢竜治退職、一二代目戸長菊地竹治就任

六月②乃木中将来村、井上包太郎家を訪問。○江部乙に出雲神社創設、巖沢神社に合祀（明治三五年一八丁目に奉遷）

九月⑥真宗本願寺派光暁寺寺号公称。⑦⑧石狩川・空知川氾濫。⑤大和国人・久保正宣移住、金融業開始。○新聞の購読が始まる  
 一〇月③戸長菊地竹治退職、一二代目戸長今井勇吉就任  
 一二月⑦興禪寺一の坂に移転改築、興禪寺寺号公称  
 この年、江部乙駅を西一二丁目に移転。光暁寺建立

明治三五年（一九〇二）

国・道関係

一月⑩日英同盟締結。○江別兵村に道内はじめての信用組合設立。○八甲田山遭難凍死事件  
 二月②北海道二級町村制改正公布  
 四月②林頭三「北海誌料」公刊  
 六月①函館〜小樽間鉄道起工  
 八月⑩北海道最初の衆議院議員選挙（札幌・函館・小樽の三区のみ）  
 九月⑩北海道土功組合法施行令公布。⑩北海道会議事

堂新築落成

一〇月③札幌・函館・根室の三税務管理局を廃し、札幌税務局監督局を置く  
 一二月①国勢調査一〇年毎に施行の件公布。⑩第七師団各隊入営全部完了  
**滝川関係**  
 三月①石狩川橋鉄橋竣工。○滝川倉庫発起人株主募集  
 七月④町村基本財産に関する空知支庁訓令が出される  
 八月①江部乙郵便局火災により移転（本通り一二丁

目）

九月①江部乙に真宗高田派説教場創設（現専覚寺）  
 一〇月①江部乙巡査駐在所設置  
 一二月①本通り三丁目（現大町）に株式会社蛭子座創設（明治四四年一〇月と昭和一二年に増改築）  
 この年、玉ねぎの栽培が始められる。江部乙衛生組合創設。茶道宗偏流淑徳会結成

明治三十六年（一九〇三）

国・道関係

三月①第八回衆議院議員選挙  
 四月〇教科書国定となり小学校教科書文部省編集に決定  
 八月②札幌大通りに黒田清隆の銅像除幕式  
 九月②度量衡法施行令公布。○函館開港五〇年祭举行。○旭川・名寄間鉄道開通  
 一〇月②第七師団から北清駐屯軍を派遣  
 十一月〇第一回早慶戦が行われる

国・道関係

一二月①第一九帝国議会解散  
 滝川関係  
 一月①御料局滝川出張所設置（四一年二月三十一日廃止）  
 五月〇滝川演武館を滝川分署に贈与。○本通り一丁目  
 に私設消防組設立  
 七月⑧庁令第四六四号により下富良野が富良野から分  
 村  
 八月②滝川神社を一の坂に奉遷、他の二社を合祀して

国・道関係

御遷座祭を執行。②奈江村が砂川村と改称  
 九月③二五年から座繰製糸の藤川光太郎が「藤川兄弟  
 商会滝川製糸所」を創立  
 一〇月〇滝川倉庫合資会社創立。○石沢淵次郎が空知  
 通に機械業を開業  
 十一月〇江部乙に真宗大谷派説教所創設（現専光寺）  
 一二月〇無限責任滝川蚕桑社信用組合設立

明治三十七年（一九〇四）

国・道関係

一月〇日露交渉事件切迫し、御用船の徴発に伴い船賃  
 高騰  
 二月⑩露国に対し宣戦詔勅渙発。①商船奈古浦丸津軽  
 沖で露艦に撃沈される。函館〜青森間数日欠航  
 三月①衆議院議員選挙。④屯田歩兵第三大隊剣淵・土  
 別解散（全道の現役屯田兵無くなる）  
 四月①小学校国定教科書を使用  
 七月①たばこ専売制実施

国・道関係

八月⑦第七師団動員下令。⑩第二回道会議員選挙  
 九月④屯田兵条例解除され、以後官名呼称から「屯田」  
 が除かれる。②第七師団動員下令。○愛国婦人会創  
 立  
 一〇月⑤函館〜小樽間鉄道全通  
 一二月⑤野戦第七師団二〇三高地戦参加。②東京三越  
 本店開業  
 滝川関係  
 三月②無限責任滝川第一購買販売組合設立

国・道関係

四月⑩北辰尋常高等小学校新校舎着工（八月三日竣  
 工）  
 七月⑧一日まで豪雨水害となる  
 八月①滝川青年実業団設立。⑦屯田歩兵第七師団に充員  
 召集  
 この年、幌倉の内野むめ宅納屋で寺子屋式の教育を  
 始める。私立滝川衛生組合創設。三輪精一ホルスタ  
 イン種乳牛を飼育。滝川から浜益へ通じる道路完成  
 （仮定県道下富良野浜益間）

明治三十八年（一九〇五）

国・道関係

一月③旅順開城

二月②夕張炭山五〇〇名賃金復旧及び米味噌価格低減  
 に関し同盟罷業

三月⑩奉天入城

四月①北海道庁鉄道部を廃し、通信省鉄道作業局札幌

出張所を置く

五月⑦日本海海戦

六月①塩専売制実施

七月⑦南樺太占領

八月①炭礦鉄道会社函館、小樽間鉄道運転開始。⑤ポ

ーツマス条約成立

一〇月⑬日露平和克復詔勅渙発

明治三十九年（一九〇六）

国・道関係

一月⑦西園寺公望内閣成立。②札幌麦酒、日本麦

酒、大阪麦酒両社と合併大日本麦酒(株)設立。○小樽

銀行と北海道商業銀行と合併北海道銀行設立

二月⑭日日本社会党結成

三月⑨第七師団司令部がい旋、留守第七師団司令部閉

鎖

五月○樺太守備隊に第七師団から一大隊派遣

六月①樺太の北緯五〇度以南をロシアから受領。①日

・米海底電線竣工

九月○大日本愛国婦人会北海道支部創立総会

一〇月①鉄道国有法（三月三十一日公布）により北海道

明治四〇年（一九〇七）

国・道関係

二月⑭日日本社会党に結社禁止命令

一二月⑭桂内閣総辞職

滝川関係

二月○屯田兵日露戦役に出征（八月にも出征）

三月○北海道貯蓄銀行滝川出張所設置

四月○空知大橋着工

五月⑬空知ほか三郡酒造組合が設立され事務所を岩見

沢町に置く

滝川関係

炭礦鉄道会社所屬鉄道を買取、通信省鉄道とし札幌

鉄道作業局出張所を北海道作業局と改称

一二月⑭園田長官退任、福岡県知事河島醇、道庁長官

となる

滝川関係

二月⑭一二代目戸長今井勇吉退職。○山崎木工場創業

（場主山崎最三郎）

三月○日露戦役がい旋祝賀会（滝川屯田は第一小学

校、江部乙屯田は北辰小学校各運動場で）

四月①二級町村制施行、今井勇吉初代村長就任。①学

務委員規則制定

五月④無格社滝川神社創立許可。⑤第一回村会議員選

八月⑩糸屋銀行滝川支店設立

一〇月○滝川倉庫合資会社を株式組織とする

一二月①屯田兵がい旋帰郷（遅い者も翌年三月までに

帰郷）。⑫日蓮宗説教所本堂落成（現日勝寺）

この年、本通一・二・三丁目私設水道組合が設立

（明治二八年から使用していた）。滝川製糸組合設置

国・道関係

拳。⑤日露戦役戦死者村葬。○日本キリスト教会滝

川伝道教会新会堂落成

六月○農商務省告示第一九三号により滝川種牛牧場指

定

九月⑥九条武子来村（当時大谷武子）。○江部乙に日露

戦役戦勝記念碑建設

一二月○空知大橋竣工。⑩真宗大谷派説教所許可（現

正善寺）。○三浦木挽工場創業（場主三浦庄作）

この年、東裡・下赤平間空知川渡船開設（昭和七年

八月廃止）。平田教信の発議により幌倉青年団結成

国・道関係

四月①北海道鉄道作業局出張所を帝国鉄道庁北海道鉄

道管理局と改称。○道庁公報発刊

六月②仙台に東北帝国大学を置き、札幌農学校を東北帝国大学農科大学とする

七月①北海道鉄道会社鉄道函館〜小樽間国有となる。

②北海道製麻榑、日本製麻榑と合併帝国製麻榑を設立

八月⑩道会議員選挙（第三回）

九月⑧函館〜釧路間鉄道旭川經由で全通、小樽で祝賀会挙行

一〇月⑧兵制三年を二年に改める

明治四一年（一九〇八）

国・道関係

一月①御料局、帝室林野管理局と改称

三月⑧一二日まで全道大吹雪、交通被害甚大

五月⑮衆議院議員選挙。○韓国暴徒鎮定のため歩兵第二六連隊派遣

七月⑭西園寺内閣総辞職、第二次桂内閣成立

一〇月⑬戊申詔書渙発

一二月⑳天理教の独立許可

一二月⑤鉄道院官制公布により帝国鉄道庁北海道鉄道

明治四二年（一九〇九）

国・道関係

一月⑪北海道庁焼失

二月〇私立函館図書館設立

滝川関係

一月⑳無限責任滝川蚕桑社信用組合と無限責任第一購買販売組合と合併し、無限責任滝川信用購買販売組合と改称（発足三月一日）。○高野山真言宗大師堂創設（現照光寺）（江部乙地区）

四月①滝川尋常高等小学校幌倉特別教授所設置。③今井勇吉村長退職、小西恭蔵二代目村長就任

六月④滝川実業団結成、第一回店員大運動会

八月⑩金刀比羅神社鎮座祭執行。②滝川神社遷座祭を

管理局を鉄道院北海道鉄道管理局と改称

滝川関係

一月②石川啄木汽車にて滝川を通る。②専覚寺寺号公称。②日蓮宗日勝寺寺号公称。○今興太郎精米所開業

四月〇農商務省告示第五二号をもって種牛牧場を種畜牧場と改称

五月⑩滝川道路保護区設置。⑦空知尋常高等小学校を一の坂に位置変更認可。⑦空知太三九〇番地旧空知

小学校跡に空知尋常高等小学校の分教場設置認可（第三小学校前身）。③第二回村会議員選挙

六月〇大竹康造初代農会長となる。⑩幌倉特別教授所を滝川尋常高等小学校幌倉分教場と改称

九月〇岩見沢警察署滝川分署新庁舎落成

一二月①滝川郵便局電話交換事務開始

この年、猩紅熱流行

一二月①滝川郵便局電話交換事務開始

この年、猩紅熱流行

挙行（工事費六〇〇余円）。○三浦木挽工場を⑧木工場と改称（場主芳武新吾）

九月〇金箱神社を小林農場内四丁目高台地に建立（幌倉神社の前身）。○北辰小学校増築完成

一〇月〇森島賢次郎、滝の川通二丁目に甲斐絹工場設立

一二月①滝川郵便局電話事務取扱開始

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

一二月③小田嶋兵助、幌倉・住吉間に私設渡船業の許可を受け開業

る

一月〇札幌、岩見沢間及札幌、手宮間鉄道複線化工事竣工

滝川村関係

三月①天理教滝川布教所設立。②二の坂郵便局設置（現本町郵便局）。③村長小西恭蔵退職

四月①一級町村制施行。江部乙を分村。①高井幸次郎村長事務取扱いとして任命される

五月③第三回村会議員選挙

六月④大浦兼武農務大臣来村。⑤村長事務取扱高井

幸次郎退職

七月①大竹康造村長就任

一〇月③滝川兵村開村二〇年記念祭を旧練兵場で挙行

十一月⑤空知川沿岸鉄道期成会組織

一二月⑨空知尋常高等小学校を滝川第一尋常高等小学校と改称、一の坂に新校舎落成移転、旧校舎は分教場となる。滝川尋常小学校を滝川第二尋常小学校と改称、同時に幌倉分教場は滝川第二尋常小学校幌倉分教場と改称

江部乙村関係

九月〇札幌に石狩川治水事務所を置く

明治四三年（一九一〇）

国・道関係

三月①小樽・岩内・寿都三支庁を廃し後志支庁を俱知安に置く。〇小学校学習漢字一、三六〇字に制定

四月①北海道拓殖一五年計画実施。①札幌通信管理局を置き函館海事局を海事部と改称、同局に所属

五月〇石狩川治水工事着手。〇札幌鉄道教習所設置

六月①根室開港

八月⑩道会議員選挙（第四回）。⑨韓国を日本に併合朝鮮と改称。〇王子製紙会社苫小牧工場落成操業

全通

滝川村・町関係

三月②滝川青年会創立総会

四月〇石狩川治水工事着手（明治四三年度から大正一三年まで継続事業）。〇長万部種馬所滝川種付所設置（昭和九年廃止）

六月②常設委員規則公布。⑬合資会社三ッ輪魚菜市场

四月①滝川より分離独立して江部乙村設置。二級町村制施行、屯田兵事業場を仮庁舎とする。初代村長亀田信雄就任。⑫学務委員規則制定

六月①第一回村会議員選挙（一〇名）。⑭屯田兵中隊本部を改造して役場庁舎とする

一〇月①屯田兵共有財産二、〇〇〇町歩村有財産に寄付採納

十一月⑬音江村との村界変更を議決。⑯江部乙村農会創立総会

一二月〇真宗高田派専覚寺本堂落成

創立（大正八年株式会社）

一月③滝川町と改称。⑥下富良野線の分岐点滝川に決定

この年、⑭今井滝川支店閉店後、⑮呉服店譲受開店

四月⑩江部乙青年会発足。⑭音江村との村界変更に関する意見書を空知支庁長に提出

七月〇江部乙・音江・滝川の三村、灌漑計画を道庁へ調査申請

明治四四年（一九一一）

国・道関係

一月①日本製鋼所工場落成操業開始

二月②日米修正通商航海条約及び日英通商航海条約をそれぞれ調印。〇普通選挙法貴族院で否決

三月⑨工場法公布（大正五年九月一日施行）

四月⑧河島道庁長官東京で病没。〇小樽高等商業学校

開校

五月<sup>16</sup>静岡県知事石原健三道庁長官に就任

八月<sup>20</sup>皇太子嘉仁親王(後の大正天皇)行啓(九月一日退道)。<sup>30</sup>桂内閣総辞職、第二次西園寺内閣成立

一〇月〇手宮及び室蘭高架橋竣工

一二月<sup>14</sup>北緯三〇度以北の北太平洋でラッコ及びびオツトセイの猟獲禁止令発布

滝川町関係

二月〇鉄道下富良野線着工

国・道関係

四月<sup>2</sup>清朝滅亡、中国南北統一の臨時政府成立

五月<sup>15</sup>衆議院議員選挙

七月<sup>6</sup>ストックホルムで開催の第五回万国オリンピック大会に日本初参加。<sup>30</sup>明治天皇崩御嘉仁親王践祚・大正と改元

国・道関係

九月<sup>13</sup>明治天皇大葬執行、恩赦令公布

一二月<sup>20</sup>西園寺内閣総辞職、第三次桂内閣成立。<sup>28</sup>石原道庁長官転出、鉄道院理事山之内一次官道庁長官拝命

三月<sup>30</sup>帝国在郷軍人会滝川町分会創立

五月<sup>20</sup>幌倉分教場位置指定。<sup>28</sup>天理教滝川宣教所設立(現竜昇分教会)

六月<sup>14</sup>五十嵐太郎吉滝川実業団を組織(後の商工会)。  
〇私立消防組設立(本通二丁目)。<sup>24</sup>私立滝川病院建築着手

一〇月〇浦上義敬本通一丁目に活版所を始める

一二月<sup>12</sup>町長大竹康造死亡退職。〇<sup>28</sup>高畑運送組解

この年、網走線鉄道全通

滝川町関係  
一月<sup>18</sup>二代目町長奥井直吉就任

二月<sup>25</sup>私立滝川病院が一の坂(現滝川神社裏)に建設。<sup>28</sup>滝川町消防組第一部、第二部編成(大正三年二月一六日正式承認)

三月<sup>5</sup>私立滝川病院道庁の検査に合格開業。〇滝川町火災予防組合結成

四月<sup>10</sup>火災予防組合と衛生組合の業務を兼ねて公立滝川火防衛生組合設立(終戦により解散)

六月<sup>1</sup>第四回町会議員選挙(町制最初の町会議員選挙)。<sup>20</sup>第一尋常高等小学校、補習科設置

八月〇三浦庄作、道会議員補欠選挙に当選、滝川初の道議となる

一二月<sup>16</sup>滝川・江部乙電話線架設、二の坂郵便局電報配達事務開始

この年、高橋信行「滝川時報」旬刊紙を発刊  
江部乙村関係  
六月〇江部乙消防組創設

一二月<sup>16</sup>亀田信雄村長退職。<sup>17</sup>二代目村長山本彦太就任

散、深川辰繁又一に譲渡、滝川運輸合資会社設立

この年、滝川初の新聞「北海中央新聞」を大野武熊が発刊

江部乙村関係

三月〇在郷軍人会江部乙分会設立

六月<sup>1</sup>第二回村会議員選挙

九月<sup>1</sup>北辰尋常高等小学校増築竣工

この年、出雲神社拝殿造営(一八丁目)。光明寺が東

一二月目現在地に移転。専光寺寺号公称

大正二年(一九一三)

国・道関係

一月<sup>28</sup>大日本青年党発会

二月<sup>20</sup>山之内道庁長官転出、広島県知事中村純九郎道庁長官拝任。<sup>20</sup>桂内閣総辞職、山本権兵衛内閣成立。

〇護憲運動がさかになる  
五月<sup>13</sup>札幌通信管理局を北海道通信局、札幌鉱山監督

署を札幌勤務署と改称  
八月10道会議員選挙(第五回)

一〇月⑥ 中华民国を承認

十一月14凶作救済会を札幌に置く

一二月23立憲同志会結党

滝川町関係

一月20滝川実業団が滝川商業倶楽部に改組

三月25私立滝川病院株式会社に組織変更。⑳西裡水田

組合設立認可。㉑町会議員補欠選挙。○忠魂碑を二

の坂練兵場に建立

四月①西裡水田組合灌漑工事着手。①空知ほか三郡連

合青年会発足

大正三年(一九一四)

国・道関係

一月13東京に北海道東北凶作救済会発起人会開催。㉒

衆議院シーメンス事件暴露で混乱

四月①北海道師範学校を札幌師範学校と改称、函館に

函館師範学校を開く。①旭川町に区制施行。①⑥山本

内閣総辞職、第二次大隈内閣成立。③中村道庁長官

休職、福島県知事西久保弘道道庁長官兼任

七月28第一次世界大戦はつ発

八月15パナマ運河開通。㉓対独宣戦布告(第一次大戦

大正四年(一九一五)

五月2御獄教金勢教会設立。㉔西裡水田組合灌漑溝工

事竣工(六月二日通水)  
六月〇東京大相撲開催、勸進元畑中末次郎

七月7空知土功組合設立認可申請

八月15気温低下、更に二七日、二八日の豪雨で稀有の

大凶作。㉕広小路一〇丁目小野与太郎「遊楽館」

創立(大正六年廃館)。㉖滝川金融株式会社創立小西

恭藏支配人となる

一〇月〇鉄道下富良野線竣工。㉗坂東好太郎編「滝川

町発展史」発行

十一月10幌倉駅(現東滝川駅)設置。⑩旭川車掌所滝

川支所(後滝川車掌区)設置。⑩岩見沢機関庫滝川

参加)

一〇月25立憲同志会(後の憲政会)北海道支部発会式

を札幌で挙行

一二月25衆議院解散

滝川町関係

二月16公立滝川消防組第二部設立(本通二丁目)

三月〇旭川電気株式会社滝川火力発電所創設(二八〇

キロワット)

四月3滝川町火防婦人会組織

分区(後滝川機関区)設置。⑩下富良野線鉄道開通

(二三日祝賀会開催)

この年、赤平沼を滝川公園とする運動起こる

江部乙村関係

二月〇江部乙火災予防組合設置(終戦により解散)

四月〇山本村長苹果栽培の沿革を空知支庁長に提出

五月〇忠魂碑建立

六月①第三回村会議員選挙

この年、緬羊五頭移入。冷害大凶作(水稲は平年作

の三パーセント、苹果樹凍害で枯死多数)

一〇月12初めて市街に電灯がつく(栄町の一部)

この年、忠魂碑建立除幕式挙行(二の坂練兵場)

江部乙村関係

一月20滝川興禅寺所属説教所開設(現円覚寺)

三月6江部乙神社、公認される

九月1須麻馬内川以南江部乙の管轄となる

一月20山本彦太村長退職。㉘三代目村長三沢貫之助

就任

この年、愛国婦人会江部乙委員区結成

国・道関係

年 表

三月25第一二回衆議院議員選挙

四月1北海道史編集開始

五月⑳無尽業法公布  
 八月㉒西久保長官警視總監に転出、宮城県知事俵孫一  
 道庁長官に就任  
 一〇月〇札幌に日本赤十字社北海道支部仮病院開設  
 十一月①札幌鉄道病院開設。㉑大正天皇即位大典  
 十二月〇定山溪鉄道(株)設立  
**滝川町関係**  
 五月㉓第五回町会議員選挙  
 九月〇道会議員補欠選挙で五十嵐太郎吉当選。〇在郷

軍人会が招魂祭執行  
 一〇月㉔町長奥井直吉退職。〇滝川青年会が滝川青年  
 団と改称。更に滝川町連合青年団創立  
 十一月〇無尽法の制定により滝川金融(株)が滝川金融無  
 尽(株)と改称  
**江部乙村関係**  
 三月㉕村長三沢貫之助退職  
 四月①村長職務管理高井幸次郎就任(七月六日まで)。  
 ①一級町村制施行

五月㉖第四回村会議員選挙(一、二級議員各六名)  
 七月⑦岩佐駒蔵村長に就任。〇水害  
 八月㉗江部乙第二小学校竣工(四月二三日着工)  
 九月⑤江部乙第二小学校開校式。〇常設委員規則制定  
 (昭和一八年廃止)  
 一〇月〇私設消防組を公立消防組に認可  
 一二月〇村医の山崎司城が医院開業  
 この年、江部乙村第二墓地設置(東一八丁目)。江口  
 幸太郎が浴場「松の湯」開業

大正五年(一九一六)

**国・道関係**  
 四月①鉱業令施行  
 五月㉙北海道鉄道一千哩記念祝賀会札幌で開催  
 七月⑩簡易保険法公布  
 八月⑩道会議員選挙(第六回)  
 一〇月①簡易保険及び郵便年金創始。⑥俵長官提出の  
 拓殖計画更訂案閣議で決定。⑨大隈内閣総辞職、寺  
 内正毅内閣成立  
 十一月③裕仁親王立太子礼(昭和天皇)挙行。〇札幌  
 の(佛)今井呉服店、百貨店として発足

一二月⑬ドイツ休戦申入れで取引市場大暴落  
**滝川町関係**  
 一月①岩見沢警察署滝川分署が滝川警察署に昇格  
 二月⑦金光教滝川教会開所。⑯三代目町長川口敏澄就  
 任  
 四月①北海道銀行滝川出張所設置。①幌倉(東滝川)  
 巡查駐在所設置  
 五月①第二小学校に滝川農業補習学校併置開校式挙行  
 八月⑦空知土功組合設立認可  
 九月①佐藤歯科医院が広小路に開業。〇滝の川青年会

一結成  
 一二月〇役場庁舎を東通六丁目(現在地)の旧警察署  
 庁舎に移転  
 この年、帝国製麻(株)滝川製線工場設置。真宗大谷派  
 説教所本堂建立。滝川宝生会結成  
**江部乙村関係**  
 一月〇江部乙青年会を江部乙青年団と改称  
 八月⑦空知土功組合(現土地改良区)創設(九月第一  
 回組合議員選挙)  
 一〇月〇消防後援会組織

大正六年(一九一七)

**国・道関係**  
 一月㉚暴風雪全道的に猛威被害甚大

四月⑦満州守備隊として第七師団出発。㉑衆議院議員  
 選挙。㉒対敵取引禁止令公布

五月⑧第三回極東オリンピック大会東京で開く  
 九月①暴利取締令制定即日施行。⑥銀輸出禁止。⑫金

輸出禁止

一〇月〇ロシア十月革命

滝川町関係

一月〇滝川養電所を富士製紙電気部経営に移す。〇農事改良実行組合結成

四月①滝川商業倶楽部改組して滝川実業協会設立

六月④東部青年会結成。〇西部青年会結成

七月④滝川町汚物方法順序制定。②滝川警察署を空知

大正七年（一九一八）

国・道関係

一月⑤全道に大吹雪、列車連絡船不通数日間

二月②室蘭町、区制施行

四月①札幌農科大学、東北帝国大学から分離して北海道帝国大学と改める

五月⑦外米補給法公布

八月①開道五〇年記念祭挙行。記念博覧会を札幌・小樽で開く。③米騒動全国に波及、一三日東京で軍隊出動。④満洲守備の第七師団をシベリアに出兵させる

九月⑨寺内内閣総辞職、原敬内閣成立（初の平民内閣）

一〇月⑦定山溪鉄道開通

十一月⑩ドイツ降服、第一次世界大戦が終わる

大正八年（一九一九）

通北一丁目に新築落成祝賀会開催。〇滝川町隔離病舎設置

八月⑧アート・スマス練兵場で飛しょう、自動車も持参。①榊滝川病院解散閉鎖により、寒河江巧、滝川病院の名を継いで本町に開業

九月⑦北海道銀行の出張所が滝川支店に昇格。③光暁寺新築移転

一〇月①滝川構内倉庫創設

この年、世界的にスペイン感冒流行

滝川町関係

二月〇広親会私立消防組設立（五月一日公立滝川消防組第三部として公認）

三月〇滝川町火防婦人会を滝川町婦人会と改称。③滝川第一尋常高等小学校空知太分教場廃止

四月①種畜場が農商務省滝川種羊場として独立。⑩空知太分教場が滝川第三尋常小学校となる

五月⑩第六回町会議員選挙

七月⑫滝川神社社に列せられる

九月⑨北海道拓殖銀行滝川出張所設置

一〇月〇構内倉庫創設工営業開始

一二月②願成寺本堂新築落成。⑨北海道銀行滝川支店

一二月〇第二小学校幌倉分校落成式挙行。⑫滝川町消防後援会設立

この年、滝の川三丁目に滝川酪農社創設（翌年南空知太に移転）

江部乙村関係

六月⑫空知土功組合現場事務所を元屯田兵中隊本部に置く

九月⑦江部乙神社社となる

空知太九二番地に営業所新築

江部乙村関係

五月⑩第五回村会議員選挙

六月①電灯が初めてともる（一四四戸）

八月⑩西一二丁目に隔離病舎建設

一〇月〇役場庁舎建築

十一月⑩石川団体分教場設置。⑦村長岩佐駒蔵死亡退職

一二月⑬五代目村長岡本岩蔵就任

この年、苹果樹（りんご）モニリヤ病でほとんどが無収穫となる

国・道関係

年表

一月⑧第一回バリ講和会議開催

二月〇流行性感冒全国的（死者続出）

四月<sup>①</sup>俵道庁長官退官。岡山県知事笠井信二道庁長官  
 拝命。<sup>③</sup>第七師団帰還（翌月一四日にわたる）。○東  
 京、札幌間旅客飛行開始  
 五月<sup>⑤</sup>鉄道院北海道管理局を札幌管理局と改称。<sup>⑤</sup>北  
 海道通信局を札幌通信局と改称。<sup>②</sup>衆議院議員選挙  
 法改正、道定員六名を一六名、選挙区一二となる  
 六月<sup>⑪</sup>北海道製糖<sup>糖</sup>創立。<sup>⑧</sup>ベルサイユ条約調印  
 七月<sup>⑬</sup>北海製鉄<sup>鉄</sup>、日本製鋼所に合併  
 十一月<sup>⑭</sup>日本労働党結党

大正九年（一九二〇）

国・道関係

一月<sup>⑩</sup>平和克復の大詔渙発  
 二月<sup>⑮</sup>帝国議会解散  
 三月<sup>⑬</sup>全国労働連合会創立。<sup>⑮</sup>財界恐慌、各市場大暴  
 落。○尼港で邦人惨殺事件起こる  
 五月<sup>①</sup>第一回メデー（上野公園で）。<sup>⑩</sup>衆議院議員選  
 挙。○第七師団、尼港占領（翌一〇年七月がい旋）  
 六月<sup>⑦</sup>本道初めての貴族院多額納税議員選挙。<sup>⑩</sup>第一  
 回時の記念日  
 七月<sup>①</sup>釧路町に区制施行。<sup>②</sup>十勝清水町に日本甜菜製  
 糖<sup>糖</sup>創立  
 八月<sup>⑩</sup>第七回道会議員選挙  
 九月<sup>⑦</sup>帝国連合艦隊小樽に入港  
 一〇月<sup>①</sup>第一回国勢調査

滝川町関係

三月<sup>③</sup>滝川農業補習学校廃止  
 四月<sup>①</sup>北海道農産物検査所滝川支所設置（現農林水産  
 省食糧庁北海道食糧事務所滝川支所の前身）。○三ッ  
 輪魚菜市场株式組織に改組。○夕印滝川海陸物産市  
 場<sup>糖</sup>設立  
 七月<sup>①</sup>旭川区から岩見沢区裁判所滝川出張所となる。  
<sup>⑩</sup>開町三〇年記念式挙行。<sup>②</sup>水害  
 八月<sup>⑩</sup>滝川火防衛生組合が衛生博覧会を開催

一月<sup>②</sup>娼妓の店張禁止、写真とする  
 二月<sup>⑫</sup>道会法実施二〇年記念式を道会議事堂で挙行  
 滝川町関係  
 一月<sup>⑤</sup>滝川町教育会創設（空知教育会の下部組織）。○  
 真言宗教師木曾智順米町布教（郷芳寺前身）  
 二月<sup>⑮</sup>町長川口敏澄退職  
 三月<sup>⑤</sup>庁立滝川中学校設立認可。○小野木工場を滝川  
 木挽工場と改称（<sup>①</sup>木工場の前身）  
 四月<sup>⑨</sup>四代目町長渡辺忠四郎就任。①国道二七号（旭  
 川線）、地方費道根室線、準地方費道浜益線等の道路  
 認定。⑦第一尋常高等小学校内の一部を使用、庁立  
 滝川中学校開校一年一〇〇名二学級  
 八月<sup>⑩</sup>道会議員選挙、神部為蔵当選。④、⑤水害本通  
 三丁目まで浸水

九月<sup>⑨</sup>富士製紙電氣部を不二電氣株式会社と併合  
 この年、今井一彦が坂下町で自動車二台で営業を開  
 始  
 江部乙村関係

四月<sup>③</sup>北辰尋常高等小学校校舎・屋体新改築。○江部  
 乙農産物検査派出所設置（三駐在所設置）。統計調査  
 員任命される  
 七月<sup>⑨</sup>空知灌漑溝第一期工事（大幹線水路）着工。<sup>②</sup>  
 水害被害甚大

九月<sup>⑩</sup>製線工場廃夫  
 一〇月<sup>①</sup>第一回国勢調査（二〇、一八八人）  
 この年、滝川市街地青年団結成。滝川体育会結成  
 江部乙村関係

四月<sup>①</sup>町村道路線認定施行  
 六月<sup>⑩</sup>態之沢分教場開校（四月起工）。○江部乙果樹組  
 合設立（戦後果樹協会と改称）  
 八月<sup>②</sup>水害被害一五九町歩  
 一〇月<sup>①</sup>第一回国勢調査（四、六七〇人）  
 一月<sup>④</sup>村長岡本岩蔵辞任。⑦有限責任江部乙信用購  
 買販売組合創設。○天理教宣教所建設（現北陽分  
 会）  
 一二月<sup>⑩</sup>江部乙郵便局東一二丁目に移転

大正一〇年（一九二一）

国・道関係

三月③内務省史蹟に手宮洞窟、天然記念物に阿寒湖蘆葦、厚岸湖牡蠣島の植物群落、後方羊蹄山の高山植物帯、野幌原始林、円山原始林、藻岩原始林を指定  
四月⑫メートル法公布。⑭函館大火一、一〇〇余戸全焼  
五月①苫小牧大火九九八戸全焼。⑯笠井長官退官、愛知県知事宮尾舜治道庁長官拝命  
八月⑤釧路・根室間鉄道開通  
十一月⑬首相原敬暗殺され内閣総辞職、高橋是清内閣成立。⑮皇太子裕仁親王摂政となる

大正一一年（一九二二）

国・道関係

二月⑥ワシントン海軍条約調印  
三月⑩未成年者飲酒禁止法公布  
四月⑯少年法制定  
六月⑩北海道功組合設置。⑫高橋内閣総辞職、加藤友三郎内閣成立  
七月⑭北海道鉄道開業  
八月①北海道六区（札幌・函館・小樽・旭川・室蘭・釧路）に市制施行。①札幌支庁を石狩支庁と改称。  
⑮シベリア撤兵開始（一〇月完了）  
一〇月⑭日露軍事協定成立

一月⑬日英同盟廃棄。⑮函館控訴院札幌に移転開庁。⑯不二電気機、北海道電灯機と改称  
滝川町関係  
二月②空知太青年団創立  
三月④滝川町教育会を空知教育会滝川支部に変更。⑫庁立滝川中学校校舎竣工  
五月⑩第七回町会議員選挙  
六月⑩高野山大師教会滝川支部公認（郷芳寺）  
九月〇空知土功組合工事完成。〇滝川町役場庁舎新築着工  
一〇月①空知税務署から分離し、滝川税務署設置。

一月⑩郡制廃止法公布。〇宗谷線全通  
一二月⑩ソビエト社会主義同盟成立  
滝川町関係  
三月⑤菊花友の会（現同好会）結成  
四月①赤平村が歌志内村より分村。①第二小学校幌倉分教場独立、滝川第四小学校設置。⑦北滝の川巡査駐在所設置。⑧庁立滝川中学校三学級募集一六六名入学許可。⑨日本基督教滝川伝道教会を日本基督教会滝川教会と改称  
五月⑦札幌管林区署滝川担当区員駐在所設置  
六月①岩見沢検査所滝川分所（後客貨車区）開設。

⑳滝の川青年会を滝の川青年団と改称  
二月〇滝川町役場庁舎新築落成  
江部乙村関係  
二月⑩六代目村長岩橋浅次就任  
三月⑩江部乙処女会発足。㉓北辰小学校保護者の会設立  
五月⑩第六回村会議員選挙  
八月⑧江部乙土功組合創設（現土地改良区）  
十一月③空知灌漑溝大幹線通水式  
この年、栄楽座が開館（昭和三九年九月閉館）

〇小樽新聞滝川支局設置。〇旧北海タイムス滝川支局設置。〇滝川綿羊毛加工奨励所設置  
七月⑫滝川実業協会大会。㉔幌倉（現東滝川）郵便局設置  
八月⑫滝川酒造組合設立。㉕水害、空知川鉄橋流夫  
九月⑩滝川種羊場庁舎建築  
一〇月⑩無限責任滝川信用購買販売組合解散  
一二月⑦駅前巡査駐在所設置  
この年、滝川運輸合資会社解散、㉘加賀井運送店開業。北海道中央猟友会結成  
江部乙村関係

一月〇江部乙巡查駐在所庁舎新築  
 八月⑤水害、田畑冠水  
 九月⑤空知灌漑溝落成式挙行（大正八年着工）  
 一〇月〇西一八丁目石狩川護岸工事施工

一二月⑤江部乙土功組合貯水池竣工（着工四月二四日）  
 〇江部乙消防応援団組織  
 一二月⑦江部乙東巡查駐在所設置（昭和四六年五月一三日廃止）

この年、新四国八八か所の霊場ができる。赤字財政におちいり経費を繰上げ充用

大正一二年（一九二三）

国・道関係

一月〇北海道医学会設立。〇婦人参政権獲得同盟設立  
 二月〇第一回全日本スキー大会小樽で開催  
 四月〇衛戍監獄を衛戍刑務所と改称  
 六月〇道庁長官が総裁となる北海道少年団連盟結成  
 八月〇北海道庁新館落成  
 九月①関東地方大震災。②加藤内閣総辞職、第二次山本権兵衛内閣成立。③宮尾長官復興院に転出、大阪府知事土岐嘉平道庁長官拝命  
 一一月⑩国民精神作興に関する詔書渙発

滝川町関係

一二月⑦虎の門事件（難波大助、摂政宮に発砲）。山本内閣総辞職  
 二月〇第三尋常小学校屋内運動場新設  
 四月①初めて納税組合が組織された  
 六月②滝川木挽工場全焼（九月再建）  
 七月④民謡滝川美声会結成  
 九月〇④滝川劇場創立（片畑通二八番地）。⑤⑥石狩川・空知川氾濫水害  
 一一月③空知川堤防工事着工

江部乙村関係

この年、片畑通（現大町）に三〇〇KV Aの変電所建設。私立滝川義勇消防組結成、空知通北三丁目に番屋建設  
 二月〇三沢貫之助を中心に屯田兵恩給を請願  
 七月〇真宗興正派松井教薫布教を始める  
 九月⑤村長岩橋浅次退職  
 一一月〇屯田兵恩給給与決定  
 一二月⑭七代目村長三沢貫之助就任

大正一三年（一九二四）

国・道関係

一月⑦清浦奎吾内閣（貴族院内閣）成立。⑥摂政宮御成婚。③帝国議会解散  
 三月〇北海道庁立図書館設置  
 四月〇北海道樺太連合保護会設立  
 五月⑩衆議院議員選挙  
 六月⑪清浦内閣総辞職、加藤高明内閣成立（護憲三派

内閣

⑦第一回結核予防デー  
 七月〇札幌少年刑務所開設  
 八月⑩第八回道会議員選挙。②小作調停法公布  
 一〇月⑥農商務省を分離、農林省独立閣議決定  
 一二月②東京放送局設立  
 一二月〇札幌鉱務署、札幌鉱山監督局と改称。〇財団法人藤学園創立

滝川町関係

二月〇滝川救護隊結成（昭和一七年解散）  
 四月①滝川女子職業補習学校（第一尋常高等小学校内）開校。⑭町長渡辺忠四郎死亡退職。〇滝川郵便局市内特別郵便物取扱開始。〇④滝川劇場開館（後の北映劇場）  
 五月⑩衆議院議員選挙、神部為蔵当選（滝川初の衆議

院議員。○郵便局舎新築移転  
六月①第八回町会議員選挙  
九月⑤五代目町長渡辺裕次就任  
十一月⑩空知川堤防竣工。○空知通北五に天理教美滝教会設立

一二年⑮拓殖銀行滝川出張所、支店に昇格。○北海土功組合灌漑溝工事着工  
この年、高野山大師教会滝川支部大師堂建立(現郷芳寺)  
江部乙村関係

四月○高野山説教所(現昭光寺)移転新築  
五月⑳第七回村会議員一六名選挙。○出雲神社神殿改築  
九月○免許産婆初めて開業される

大正一四年(一九二五)

国・道関係

一月⑩日ソ基本条約調印、国交回復  
三月①東京放送局芝浦で試験放送開始。③農商務省を農務・商工の二省に分離(四月一日実施)  
四月①文部省令師範学校規定改正(本科二部五年制、専攻科一年新設)。①中学校に軍事教育実施。②治安維持法公布(五月一日施行)  
五月①陸軍四箇師団廃止実施。⑤衆議院普通選挙法公布  
七月⑩東京放送局本放送開始。⑤朝日新聞社訪欧機「東風」「初風」代々木出発  
八月①閣内不統一のため内閣総辞職、第二次加藤高明内閣成立。○日本農民組合北海道連合会組織  
九月⑩貴族院多額納税議員選挙。⑩土岐長官退官、熊

本県知事の中川健蔵道庁長官兼任。⑮帝国議会議事堂全焼  
一〇月①人口調査。○北海道新聞協会設立  
滝川町関係  
三月○浄土真宗本願寺派仮説教所認可(現広徳寺)  
四月○上田工業所創業(現上田コンクリート工業所)  
五月⑩滝川町婦人会が乳幼児健康診断を毎月実施を決定。○滝川屯田移住記念碑建立  
六月⑩滝川第四小学校校舎改築認可  
七月⑩忠魂碑を二の坂練兵場から滝川神社境内に移転  
九月⑩滝川第一小学校校舎改築完成  
一〇月①人口調査(一一、七九八人)  
十一月①滝川駅舎新築竣工(七月五日工事着工)  
十二月⑤第四小学校校舎改築落成祝賀会。⑫滝川警察

署増改築。⑮第二小学校校屋内運動場新築。  
この年、帝国製麻、滝川製線工場閉鎖。滝の川西三丁目渡船場廃止  
江部乙村関係  
一月○電話架設促進期成会組織(九月認可)  
二月⑦村長三沢貫之助退職。⑮村長職務管掌高尾善次就任(八月一七日まで)  
三月○仏教婦人会組織  
四月⑧北辰小学校校舎全焼  
八月⑩八代目村長上田梅次郎就任  
一〇月①人口調査(五、七二一人)  
十一月⑤屯田兵恩給期成会が江部乙神社に鳥居を奉納。⑰北辰小学校校舎新築

大正一五年(昭和元)(一九二六)

国・道関係

一月⑩加藤首相死亡、若槻礼次郎第一次内閣成立

二月⑩第一回建国祭

三月○北海道酪産販売利用組合(後の雪印乳業)発足

五月⑩十勝岳爆発。②糸屋銀行休業、道北中部地方商

工経済界に影響甚大

<p>六月⑥貴族院多額納税議員補欠選挙 八月〇明治神宮外苑競技場竣工 九月〇天塩線全通 一〇月⑤普通選挙法による市会議員選挙 一二月⑫北海道拓殖銀行、糸屋銀行買収合併。⑮大正天皇崩御、皇太子裕仁親王践祚、昭和と改元 <b>滝川町関係</b> 三月①滝川実業協会を改組、滝川商工会設立 五月⑭糸屋銀行滝川支店閉鎖</p>	<p>七月①青年訓練所を各小学校に併置 八月⑫滝川神社御造宮御遷座祭執行 九月⑬滝川自動車運輸創設 十一月⑪滝川処女会を女子青年団と改称。〇石狩川橋架換修理 この年、斉藤欣峰「北海民友新聞」、久貝富蔵「愛国新聞」の旬刊紙発刊 <b>江部乙村関係</b> 二月⑱女子実業学校江部乙女学校設置。〇江部乙駅舎</p>	<p>改築、跨線橋設置。〇電話架設（加入者三六戸） 五月⑥真宗興正派説教所認可（現西教寺）。〇石灰硫黄合剤製薬工場創設 六月⑮江部乙東巡查駐在所落成 七月①青年訓練所設置 一〇月〇島津勇次郎ほか二名、鉱泉湧出をみつけて温泉宿を開業</p>
---	---	---

<p><b>国・道関係</b> 二月⑦大正天皇大葬 三月⑩糸屋銀行預金北海道拓殖銀行引受払戻開始。⑫金融界不安、日銀非常貸出方決定。⑬公益質屋法公布（八月一〇日施行） 四月⑳若槻内閣総辞職、田中義一内閣成立。㉑二四日まで全国銀行一斉休業。㉒大日本女子青年団設立。 ⑳中川長官退官、福島県知事沢田牛麿道庁長官拝任 五月⑤第一回乳幼児愛護デー実施 六月①立憲民政党結成（総裁浜口雄幸）</p>	<p>一月①米麦榖売廃止。メートル法採用実施 一二月⑳東京地下鉄上野・浅草間開業 <b>滝川町関係</b> 一月〇吉田儀作「愛国新聞」を発刊 二月〇榑滝川運送社創立 三月〇滝川刀剣同好会結成 五月⑳第九回町会議員選挙 六月⑫道内三七商工会による「北海道商工会連合会」設立、五十嵐太郎吉会頭となる。㉓砂川町字南空知太石山に在郷軍人分会射撃場を設置</p>	<p>この年、〇東部青年会を東部青年団に改称。〇滝川純正詩社支部（現滝川歌人会）結成 <b>江部乙村関係</b> 三月〇石川団体分教場廃止 四月〇曹洞宗興禅寺所属説教所新堂、位牌堂落成 五月⑳第八回村会議員選挙。〇乳幼児愛護デー実施。 〇消防組二部制施行（認可消防組を第一部、消防応援団を第二部） 一二月〇江部乙節風会（現宝生会）結成</p>
--	--	---

<p><b>昭和三年（一九二八）</b> <b>国・道関係</b> 一月⑫第五回帝國議会議会解散。㉔日ソ漁業条約調印</p>	<p>二月⑫衆議院議員選挙 三月⑮第二次共産党員大量検挙（三・一五事件）</p>	<p>五月⑤人見絹枝第九回オリンピック大会で世界新記録。⑯満洲の治安防衛決定</p>
--	--	--

<p>六月④張作霖京奉線列車で爆死。⑤札幌放送局放送開始</p> <p>八月⑩第九回道会議員選挙</p> <p>一〇月①陪審法実施</p> <p>十一月③初の明治節。⑩即位大礼挙式</p> <p><b>滝川町関係</b></p> <p>一月⑱滝川神社郷社に列する。⑳滝川金融無尺俵を滝川無尺俵と改称。○三ッ輪魚菜市场と滝川海陸物産市場と合併し、滝川市場(株)組織</p> <p>二月⑳衆議院議員選挙で神部為蔵当選(普通第一回全)</p>	<p>道五区制となる)</p> <p>四月㉒町長渡辺祐次退職。○北海道庁河川監視滝川駐在所設置</p> <p>五月⑮札幌土木事務所滝川道路保護区(現土木現業所)が栄町に設置</p> <p>九月⑬六代目町長津田美之助就任。○運海寺明神町に新築移転</p> <p>一二月⑨滝川町御大札記念貯金組合結成</p> <p><b>江部乙村関係</b></p> <p>二月○江部乙商工会設立</p>	<p>三月○畜牛組合、酪農組合設立</p> <p>四月⑦江部乙婦人会結成。⑮江部乙女子青年団組織</p> <p>八月⑱村長上田梅次郎退職</p> <p>十一月⑨江部乙神社境内に開村記念碑建立。⑩開基三五年記念式典挙行。○火の見櫓にモーターサイレン取付</p> <p>一二月⑰九代目村長大崎栄吉就任</p> <p>この年、農事実行組合生まれる</p>
--	--	--

昭和四年(一九二九)

<p><b>国・道関係</b></p> <p>四月⑫資源調査法公布。⑯共産党員大量検挙(四・一六事件)</p> <p>六月③中国国民政府を正式承認。⑰駒が岳大噴火、附近町村被害甚大</p> <p>七月②田中内閣総辞職、浜口雄幸内閣成立。⑤沢田長官退官、朝鮮総督府拓殖課長池田秀雄道庁長官拝任。⑳緊縮実行予算発表</p> <p>八月⑰ドイツ飛行船ツェッペリン伯号霞が浦着陸</p> <p>一二月⑲上越線、清水トンネル貫通</p> <p><b>滝川町関係</b></p> <p>三月⑮滝川町連合女子青年団結成。○税務署庁舎を新</p>	<p><b>築</b></p> <p>四月⑯町立滝川高等女学校設置認可。○公立滝川消防組第四部設立(義勇消防組を公認)</p> <p>五月⑩町立滝川高等女学校開校(第一尋常高等小学校内)。○北海土功組合灌漑開始</p> <p>六月⑦商工会規則の制定により滝川町商工会に改組。</p> <p>⑯滝川屠場合資会社「獣魂碑」建立</p> <p>一二月⑳神習教空知講社開所(昭一一・六・一八支教会許可)。㉒滝川高等女学校新校舎落成により移転(現滝川高校)</p> <p>この年、滝川畜産組合設立</p> <p><b>江部乙村関係</b></p>	<p>五月㉒熊穴川土功組合創設</p> <p>六月○江部乙輪友会結成</p> <p>七月㉒江部乙第二小学校増築落成式(五月六日起工、七月一八日竣工)</p> <p>八月⑯第一回全道自転車競技大会を北辰小グラウンドで開催</p> <p>九月○江部乙集乳所開設</p> <p>一二月○消防自動車ポンプを初めて設置</p> <p>一二月○熊穴川土功組合貯水池竣工</p> <p>この年、乳幼児健康相談開始</p>
---	--	---

昭和五年（一九三〇）

国・道関係

一月①金輸出解禁。①日本銀行額面百円兌換券発行。

②第五七帝國議會解散

二月②衆議院議員選挙

四月②③ロンドン海軍条約調印

七月②③全国大衆党創立

八月①道産品愛用週間実施。②東京、大阪間電送写真

開始

一〇月①国勢調査。①東京、神戸間超特急「燕」運転

開始

十一月④浜口雄幸総理狙撃される。外幣幣原喜重郎代

理

この年、大豊作と恐慌で農産物価格の崩落

滝川町関係

一月〇第一回スキー大会を石山スロープで開催

二月②保証責任滝川信用購費販売利用組合設立（のち

の滝川産業組合）。②衆議院議員選挙神部為蔵当選

三月⑤滝川女子職業補習学校廃校

五月⑩滝川高等女学校校舍落成式、開校式。③第一〇

回町会議員選挙 ○滝川酪農社、勇払郡安平村遠浅

に移転。○日之出無尽(株)滝川出張所設置。

七月⑫私設幌倉消防組設立

八月⑯第二小学校校舍大修理

九月⑤空知太説教所許可創立（現北岳岳寺）。⑥庁立

滝川中学校理科室増築

一〇月①国勢調査実施（一三、五一九人）

この年、滝川ハーモニカバンド結成（昭二二年滝川

管絃楽団と改称）

江部乙村関係

四月⑫円覚寺寺号公称。○家屋税調査委員会発足

五月⑬第九回村会議員選挙

七月〇江部乙公園造成

一〇月①国勢調査（六、四一四人）。②熊六川土功組合

貯水池落成式、記念碑建立。○健康週間実施

昭和六年（一九三一）

国・道関係

一月①ソビエト通商代表局小樽支部設立

三月③地租法公布

四月①小学校長会「北海道小学郷土読本」出版、教科

書に採用。④浜口内閣総辞職、第二次若槻内閣成立

五月〇第一回乳幼児愛護週間

六月①勅令公布官吏減俸となる

七月⑤平壤に万宝山事件の報復、鮮支人大衝突。④道

内郵便局集配人詰襟服を背広服に改める

八月⑤アメリカ人リンドバーグ夫妻北太平洋横断成

功、根室着

九月⑬満州事変ぼつ発

一〇月②池田長官退官、京都府知事佐上信一道庁長官

兼任。⑩札幌線石狩沼田、中徳富間開通

一二月⑬若槻内閣総辞職、犬養毅内閣成立。○金輸出

再禁止令公布

この年、東北・北海道冷害大凶作。失業者増

滝川町関係

三月③第一回滝川町実業団卓球大会開催。○農林省札

幌統計調査事務所滝川出張所設置

四月①町立滝川高等女学校を北海道庁立に移管

六月①内国及び日支和欧文並びに外国電報取扱開始

七月①滝川煙草販売所設置。①滝川無尽(株)は小樽無尽

(株)と合併して小樽無尽(株)滝川支店となる。○滝川町

野球協会設立

九月⑬広徳寺本堂新築寺号公称

この年、滝川酪農組合集乳所開設（昭一〇年六月北

海道製酪組合連合会に譲渡）。大凶作

江部乙村関係

一月⑥下四号渡船場設置認可（昭二六年ごろ廃止）

四月㉘江部乙土坊組合貯水池築堤欠漬（九月復旧工事着工、七年一月竣工）

五月○消防第二部に消防自動車ポンプ設置、番屋新築

この年、短歌紀元江部乙支社（現短歌連盟）結成。江部乙副業組合設立。冷害

昭和七年（一九三二）

国・道関係

一月㉑第六〇帝國議會解散。㉒上海事変ほっ発。○兌換停止緊急勅令実施

二月㉓衆議院議員選挙

三月①満州建国宣言

四月⑧再建共産党首脳検査

五月⑯犬養首相暗殺される（五・一五事件）。高橋是清臨時首相兼務。㉔内閣総辞職、齋藤実内閣成立

六月㉕第七師団先遣隊北支向け出発。㉖警察庁に特別高等警察部設置

七月⑤第一回社会事業デー

八月①第一〇回オリンピック大会ロサンゼルスで開催。㉗道会議員選挙

九月①浦河支庁を日高、河西支庁を十勝と改称。㉘貴

族院多額納税議員選挙

一〇月⑧国立公園七二か所正式決定。○大日本国防婦人会創立

一二月㉙宗谷丸稚泊連絡に就航

滝川町関係

二月⑤農林省滝川種羊場を北海道地方費に移管。○北門日報社滝川支局設置

四月○滝川消防組常備消防部設置

五月○石黒貞一（白萩）が「独歩の碑木」を建立

六月⑩第一・第三小学校学校林敷地問題交渉妥結

七月㉚滝川緬羊組合羊毛加工奨励部設置

八月⑮石狩川大洪水、農作物等被害甚大

一〇月①消防組消防本部建物竣工

一一月⑮拓殖銀行滝川支店建築竣工。○滝川紫山流盤

景（現滝川紫山会）結成

一二月①二の坂郵便局を一の坂に移転、一の坂郵便局と改称

この年、○東部青年倶楽部設立。○赤平沼を滝川公園にする期成会結成、同時に敵島神社を建立。○滝川自動車運輸を滝川バスと改称

江部乙村関係

二月○凶作救済肥料資金借入保証

四月○開村三五年史（江部乙村史）刊行

八月○前後八回に及ぶ大洪水、被害甚大（水稻反収四斗五升）

一〇月○真宗本願寺派光明寺本堂落成

一一月⑯村長大崎栄吉退職

昭和八年（一九三三）

国・道関係

二月⑭帝國軍用大協会北海道支部旭川で創立総会

三月⑬水産物検査道管認可公布。㉙国際連盟脱退詔書

煥発

四月①国定教科書色刷りとなる。①児童虐待防止法公

布

六月①日支停戦協定調印。㉚娼妓取締規則改正公布

八月㉛汚物掃除法実施

一一月①第一回図書週間開催。④札幌〜旭川間連絡試

験郵便飛行成功

一二月①道内に三等寝台車連絡運転開始。①樽前山大

爆発。㉛皇太子明仁親王誕生

滝川町関係

一月⑬町立病院建設議案町議会で可決

四月①公立滝川消防組一部が四部を併合して三部制で

発足。⑨第一回北部空知卓球大会開催  
 五月〇第一・第三小学校保護者会による学校林植樹開始  
 六月⑳町立社会病院建設起債一三万円許可される  
 七月㉑石狩川上流地方大豪雨のため氾濫被害大  
 一〇月㉒町立社会病院設立認可

一二月㉓町長津田美之助退職。㉔浄土宗南空山泉学寺寺号公称  
 二月㉕滝川町緬羊組合組織  
 江部乙村関係  
 五月㉖経済更正五か年計画樹立  
 六月㉗江部乙信用購買販売組合が有限責任から保証責

任に変更(昭一九年解散)  
 七月①政府米一万俵の貸付を受ける。②大崎栄吉が村長に再選される  
 八月③水害発生  
 九月④石狩川沿岸道路設置期成会結成

昭和九年(一九三三)

国・道関係

三月①満州帝国誕生。②函館市大火(二三、六〇〇余戸全焼)  
 六月③中等学生制服統一、国防色詰袴戦闘帽  
 七月④齊藤内閣総辞職、岡田啓介内閣成立  
 八月⑤石狩川第一区治水式及び第二区工事起工式を江別で行う。  
 一〇月⑥札幌線、中徳富・浦臼間開通。㉑第一五回赤十字国際会議東京で開催  
 一二月①丹那トンネル開通。④大雪山及び阿寒、日本中部山岳、日光、阿蘇とともに国立公園に指定  
 この年、全道的に凶作。ロンドン海軍条約破棄

滝川町関係

一月①七代目町長小華和貞男就任  
 四月②佐々木舞踊研究所(現藤間流日本舞踊研究所)結成。③町立社会病院建築工事に着手(一〇月二日竣工)。④私設幌倉消防組結成  
 五月⑤第一一回町会議員選挙  
 七月⑥南空山泉学寺本堂建立  
 八月⑦農産物検査支所庁舎建設  
 九月⑧北海道地方費岩見沢森林事務所滝川分区員駐在所設置。⑨道会議員補欠選挙山田清孝当選  
 一二月①町立社会病院開院、隔離病舎開設。一〇日開院式挙行。㉒空知大橋架換工事竣工

江部乙村関係

この年、滝川市場(株)を滝川卸売市場(株)と改称。滝川スキー会(昭一九年スキー連盟と改称)結成。夏の低温で冷害  
 一月①石狩川沿岸道路構築施工を議決  
 五月②第一〇回村会議員選挙。③北辰尋常高等小学校校舎増築落成(昭八・九・一八着工、昭九・五・二一竣工)  
 九月④江部乙緬羊組合設立(昭一九年農業会に吸収され解散)  
 一二月①空知土功組合江部乙事務所新築

昭和一〇年(一九三五)

国・道関係

一月①日本の南洋委任統治継続を国際連盟確認  
 三月②実業補習学校令青年訓練所令廃止、青年学校令

公布。③中国政府排日取締令発布。④国際連盟脱退の効力発生  
 四月⑤帯広町に市制施行。⑥北大水産専門部を廃止、

函館高等水産学校開校。⑦文部省全国学校に国体明徴を訓令。  
 七月⑧函館開港七七周年記念第一回港祭三日まで行

う。⑮関門トンネル計画実測に着手  
九月⑯天皇機関説問題となり美濃部達吉貴族院議員辞職

一月⑰人口調査。⑲札幌線鉄道全通  
十一月⑳同盟通信社設立認可。㉑天売島海鳥天然記念物に指定

この年、全道的に冷害凶作

#### 滝川町関係

一月○北海民友新聞を滝川町報に改称

四月①青年訓練所を青年学校と改称(昭二二年廃止)。

①北海道林産物検査所岩見沢支所滝川駐在所設置。

#### 昭和十一年(一九三六)

#### 国・道関係

一月②第六八帝国議会解散

二月⑩衆議院議員選挙。㉒陸軍青年将校、兵約一、四〇〇名を率い重臣を襲撃(二・二六事件)。東京に戒厳令

三月⑨岡田内閣総辞職、広田弘毅内閣成立

四月⑤屯田兵恩給疑獄終結。②佐上長官退官、朝鮮総督府警務局長池田清道庁長官兼任。㉑プロ野球連盟初めて公式戦を甲子園で行う

六月⑯北海道東北一帯皆既日蝕、世界各国の学者来道観測

七月⑪札幌八窓庵国宝指定。⑰東京戒厳令解除

八月①第一一回オリンピック大会ベルリンに開く。⑩

⑥滝川郵便局特定三等局に昇格。⑳町長小華和貞男退職。○滝川陸上競技部結成。○旭川新聞滝川支局設置(昭一五年廃止)

五月㉒八代目町長神部為蔵就任

六月○北酪連空知中央ミルクプラント設立、市乳販売を行う。○生長の家支部創設。○札幌土木事務所滝川道路保護区新町に新築移転

七月㉑大暴風雨

八月①青年学校開校

九月㉑岩見沢森林事務所滝川分区員駐在所として新十津川から移転設置。⑳滝川第三小学校位置変更校舎

#### 新築竣工

一月①人口調査(二四、〇一五人)。㉓滝川第三小学校位置変更認可

#### 江部乙村関係

二月○養鶏組合設立(昭一九年農業会に吸収解散)

三月○女子実業学校江部乙女学校廃止

四月①青年訓練所を青年学校と改称

九月○石狩川沿岸道路竣工(一月起工)

一月①人口調査(七、〇五二人)

第一一回道会議員選挙。㉒樺太始政三〇周年記念式豊原町で行う

九月⑪札幌・小樽間速達郵便制度実施。㉑帝国在郷軍人会令公布(二〇月一日実施)。㉒天皇北海道行幸室蘭着

一月⑩天皇函館出港退道。⑭官報「週報」発刊

一月⑦帝国議会議事堂竣工落成式祝賀会。㉑帯広放送局開局。㉑日独防共協定成立調印

二月②日伊協定成立。㉒市外通話規則改正実施、従来の一通話五分を三分とする

この年、政府はメーデーを禁止。ロンドン軍縮会議撤退通告

滝川町関係

#### 林己之助、汚物清掃業を開始(昭二二年、林清掃社創立)

四月○林己之助、汚物清掃業を開始(昭二二年、林清掃社創立)

#### 滝川町軍友会結成(終戦により解散)

六月⑪滝川町軍友会結成(終戦により解散)

八月⑩道会議員選挙、山田清孝当選。⑰滝川神社界社に列せられる。○愛国新聞は滝川毎日新聞と改称

九月⑩滝川第三小学校校舎竣工(二〇月二六日移転)

一月①滝川第一小学校校舎増築認可。④幌倉種羊場に甘露寺侍従御差遣。○滝川駅跨線橋移設改築

一月①幌倉郵便局舎改築

この年、滝川保線区建物竣工

#### 江部乙村関係

三月○稲熱病防除規程を設定

四月⑬河川保護組合支部水防班組織。○村は設定調査

常置委員委嘱  
五月〇青年団が献上米齋田奉仕

昭和十二年（一九三七）

国・道関係

一月②③広田内閣総辞職  
二月②林銑十郎陸軍大将内閣成立。①文化勲章制定  
（第一回九名受章）  
三月③第七〇帝國議會解散  
四月①札幌・東京間定期航空開設。①札幌市内電話度  
数制実施。⑥神風号（飛行機）出発（九日亜欧連絡  
成功ロンドン着）。②衆議院議員選挙  
五月③林内閣総辞職、六月四日までに近衛文麿内閣成  
立  
六月⑤池田長官退官、岩手県知事石黒英彦道庁長官拝  
任  
七月①樺太豊原町に市制施行（樺太唯一の市）。⑦蘆  
溝橋事件（日華事変発端）。⑩全国郵便制開始  
八月⑩日高線浦河～様似間開通して全線開通。⑮第一

一〇月〇江部乙りんご献上嘉納及び天皇お買上げの栄  
に浴する

回北海道連合青年団大会小樽で開催

一〇月⑩第一回文部省美術展覧会（通称文展）開催。

〇国民精神総動員に関する告示公布

一二月⑥日独伊三国防共協定成立

一二月⑬南京陥落。〇愛国行進曲発表

滝川町関係

六月⑦滝川警察署を警視署長の警察署に指定。〇大日  
本電力滝川営業所火災類焼により大町から栄町に移  
転

滝川町関係

八月②滝川町方面事業助成会を組織

九月③滝川町婦人会と滝川町国防婦人会が合併大日本  
国防婦人会滝川町分会と改称。④第四尋常小学校新  
校舎落成。⑥滝川町銃後後援会結成。〇滝川町防護  
団結成

一〇月⑦滝川町に於いて第六回北海道緬羊共進会開

催、紡手競技会も併せて実施

一二月〇滝川町道路保護組合設立

この年、司法保護委員が委嘱された（現滝川地区保  
護司）

江部乙村関係

四月①方面委員委嘱される

五月⑤江部乙村是設定される。〇聖旨奉戴記念植樹実  
施

六月〇石狩川沿岸道路竣工記念碑建立

七月⑮村長大崎栄吉退職。〇第一回召集令状令達され  
る

八月⑰一〇代目村長米野源一就任。〇銃後後援会設立  
この年、空知畜産組合江部乙駐在所設置（昭二三年  
度廃止）

昭和十三年（一九三八）

国・道関係

一月④岡田嘉子（女優）樺太半田沢から越境ソ連へ逃  
亡。⑥厚生省新設。⑩近衛内閣対支方策発表  
二月①綿製品にスフ混用制実施。⑪帝国憲法発布五〇

年式典。⑫釧路放送局開局

三月①綿糸配給統制規則実施（切符制）。⑦ガソリン  
及び重油販売取締規則実施。⑫北海道結核予防委員  
会発会。⑭国家総動員法案成立（五月五日公布）

四月①農地調整法公布

五月①重要産業統制法実施。⑰徐州完全占領。⑱東京  
～札幌間電送写真開始  
六月⑮道権青年団服装、国防色折衿式に統一

七月○有有限会社法成立（企業合同措置）

八月⑩張鼓峰事件日ソ停戦協定成立

十一月⑮日独伊文化協定調印

二月⑳石黒長官退官、神奈川県知事半井清道庁長官

兼任。㉑ソ連函館領事館閉鎖。○北海道人造石油㈱

設立

滝川町関係

一月○男子青年団と女子青年団が合併して滝川町連合

青年団結成

二月①滝川木材㈱創立（座主木工場を買収）

四月○神理教滝川分教会開所

五月⑩第一二回町会議員選挙

七月①若見沢職業紹介所滝川出張所開設。②滝川消防

組後援会再設立

八月⑳滝川及び留萌に人造石油工場設置決定。○夕張

鉄鋼所滝川第三工場設立決定。③滝川警察署演武場

新築

一月①札幌鉱山監督局滝川支所設置（五日庁舎完

成）。○蛸の首短切着手。○貯蓄報国碑除幕

この年、滝川卸売市場㈱栄町に移転

江部乙村関係

一月○男子青年団と女子青年団が合併して江部乙青年

団を結成

三月○江部乙商業組合創立

四月○江部乙婦人会を国防婦人会と改称

五月⑩村会議員選挙

六月○国民貯蓄組合を結成

九月○青年会館落成

一月○円覚寺本堂落成

一月○真宗興正派説教所本堂落成

一二月②江部乙第二小学校屋内体操場建築。○北辰小

学校屋内体操場増築。⑤村立江部乙医院開院診療開

昭和一四年（一九三九）

国・道関係

一月⑤近衛内閣総辞職、平沼騏一郎内閣成立。㉑警防

団令公布（四月一日施行）。消防組廃止

三月⑩高等工業学校室蘭市設置決定（五月二二日開

校）

四月①全国の銃後後援会を銃後奉公会と改称

五月⑩ノモンハン事件ぼっ発。㉒青少年学徒に勸語換

発

七月⑧国民徴用令公布。㉓米国通商条約廢棄通告

八月①道庁土木部各地土木事務所を土木現業所と改

称。㉔平沼内閣総辞職、阿部信行大将内閣成立

九月○英仏が対独宣戦を布告（第二次世界大戦がぼっ

発）。④欧州戦不介入声明。⑤半井長官転出、宮城県

知事戸塚九一郎道庁長官兼任。⑥ノモンハン日ソ停

戦協定成立。㉕道米公定価格決定

一月①日鉄北海道工場室蘭に完成

一月①中央気象台札幌支台を札幌管区気象台と改称

この年、中央物価委員会が物価統制大綱を決定、米

穀揚精等制限令、肥料配給統制規則、木炭配給統制

規則などの公布が行われた

滝川町関係

一月①各運送店を合併滝川通運㈱設立

四月①滝川高等女学校補習科付設。①消防組と防護団

と併合して滝川警防団組織二部制。消防後援会を警

防団後援会と改称。②銃後後援会を滝川町銃後奉公

会と改称。㉖青年学校義務制実施（二二年廃止）。

○蛸の首短切工事竣工通水

五月⑦滝川司法保護委員会結成

六月⑨北海道人造石油株式会社起工。○池の前地区石

狩川切替工事着工

七月⑮高橋信行著「滝川昔物語」発行

八月①滝川道路保護区を札幌土木現業所滝川派出所と

改称

一〇月⑧滝川町商業組合設立総会を開催

一二月⑮深川機関区から分離して滝川機関区が設置さ

れる

江部乙村関係

一月〇村農会に畜産技術員を設置。〇江部乙青年団の支部制を分団制とする。①農地委員会を設置

昭和一五年（一九四〇）

国・道関係

一月⑬阿部内閣総辞職、米内光政大將内閣成立。⑭日米通商条約夫効  
三月⑭札幌女子師範学校開設認可（四月開校）  
五月⑬第一回報国債券売出。⑮北海道連合青年団を北海道青年団と改称  
七月⑬陸軍兵備体系改革四軍管区設定。⑯米内内閣総辞職、第二次近衛内閣成立。⑰札幌〜東京間航空無期停止  
八月⑩第一二回道会議員選挙。⑱臨時米穀配給統制規則公布  
九月⑪内務省全国町内会部落会に訓令通達。⑳国民体

二月〇家畜診療所を創設。〇廃品回収運動実施  
四月①消防組を警防団と改称。消防組後援会を解消して警防団後援会設立

力法実施。⑳日独伊三国条約締結

一〇月①国勢調査。⑳大日本大政翼賛会創立（終戦とともに解散）

一二月①国民服令公布実施。⑩紀元二六〇〇年式典。

⑳町内会部落会規則公布。⑳日支基本条約日満支共同宣言調印（南京）

滝川町関係

一月⑩滝川町商業組合認可  
四月⑩榎夕張製作所滝川事業所建設着工。〇滝川駅構内に滝川鉄道鍊成所を設置  
六月②浄土真宗大谷派高竜山説教所開設（現瑞光寺）  
一〇月①国勢調査（一六、三五三人）。①滝川町史発

六月〇満州建設勤勞奉仕隊に江部乙村からも参加  
この年、燕麦、亜麻、玉蜀黍の作付割当てが行われた

行。⑪人造石油榎研究所落成式。⑰開町五〇周年記念式挙行。〇豊滝神社建立

一二月③榎夕張製作所滝川事業所建物竣工

江部乙村関係

五月②米野源一村長死亡退職

六月②一代目村長鞍田武夫就任。〇第二次満州建設勤勞奉仕隊参加。〇砂糖、マツチ、米の切符制

九月①江部乙国民健康保険組合設立

一〇月①国勢調査（七、一四二人）

一二月〇決死の標を石碑で建立。〇稲熱病発生

一二月〇農業増産報国推進隊北海道隊編成に参加

昭和一六年（一九四一）

国・道関係

一月⑩大政翼賛会北海道支部結成。⑯大日本青少年団結成  
四月①青年学校本科義務制実施。国民学校令公布。①生活必需品統制令公布。⑱ソ中立案約締結  
七月⑬第二次近衛内閣総辞職、第三次内閣成立。⑳英

米日本資産凍結を通告

一〇月⑬第三次近衛内閣総辞職、東条英機大將内閣成立  
一二月②国民勤勞報国令公布。⑲防共協定五か年延長（ベルリン）

一二月⑧対米・英・蘭に宣戦（太平洋戦争突入）。⑪

日・独・伊三国協定調印。⑲言論、出版、集会、結社等の臨時取締令公布実施

滝川町関係

一月⑩大政翼賛会滝川支部結成

二月①職業紹介所を国民職業指導所と改称。①滝川郵便局が指定郵便局となる。②青少年団協議会結成

三月⑧荒廢地防止対策委員会開催。③天理教滝昇宣教所を龍昇分教会と改称  
 四月①国民学校令により各小学校を国民学校と改称。  
 ①各乳業公社統合により北海道興農公社設立。②滝川森林事務所設置（現林務署）。③電信受信にタイプライター使用、滝川郵便局が普通郵便局に昇格  
 六月〇雪印乳業滝川工場新築。〇人造石油工場コークス炉火入、使用開始  
 九月⑦池の前石狩川切替え工事竣工通水。⑨簡易保険、郵便年金事務取扱開始

昭和十七年（一九四二）

国・道関係

一月②マニラ完全占領。⑧興亜奉公日を廃し、大詔奉戴日を設定実施。⑬日・独・伊新軍事協定調印  
 二月①衣料品点数切符制実施。⑫愛国婦人会、大日本国防婦人会、大日本連合婦人会各解散、大日本婦人会結成。⑮味噌醬油通帳制実施。⑮シンガポール陥落  
 三月⑨蘭印軍降伏  
 四月⑩衆議院議員選挙  
 五月⑪関門トンネル貫通（十一月一五日開通）  
 六月①野付牛町市制施行北見市と改称。⑮戸塚長官退官、兵庫県知事坂千秋道庁長官拝任  
 八月⑦ソロモン海戦。⑧中学校・高等学校在学年限一か年短縮実施要綱発表

一〇月⑥一の坂町に滝川鉄道鍊成所新築落成、入所式举行  
 一月〇プロテスタント教会合同により日本基督教団滝川教会と改称  
 一二月④滝川国民職業指導所独立昇格  
 この年、第二小学校に滝川地区防空監視哨を設置  
**江部乙村関係**  
 一月〇大政翼賛会江部乙支部結成。〇区制度を廃し、部落会、町内会とし、同時に連合会制度とした。〇江部乙養豚組合を組織（昭一九年農業会に吸収解

九月⑦青壮年国民登録実施

一〇月⑪国鉄二四時間制採用  
 一二月④大東亜省開庁。①道内日刊一一新聞統合、北海道新聞開設。⑧兵制発布七〇年記念  
 一二月④文部省標準漢字決定発表  
**滝川町関係**  
 一月⑦滝川森林事務所庁舎落成  
 二月⑫大日本婦人会滝川支部結成  
 四月①庁立滝川高等女学校、一学年三学級募集。①大日本電力は配電統制令により北海道配電株式会社と改称。①第四国民学校に高等科併置。②庁立滝川中学校内に町立夜間中学校設立開校式  
 五月⑬第一三回町会議員選挙

散）  
 三月〇商業報国会、産業報国会、労務報国会設立。③江部乙第二小学校を東陽尋常小学校に改称  
 四月①北辰尋常高等小学校を北辰国民学校に、熊ノ沢分校を旭沢分校、東陽尋常小学校を東陽国民学校と改称した  
 六月〇生活必需品資が順次切符制となった  
 八月〇大谷派専光寺本堂落成  
 九月〇青果物配給統制会社江部乙駐在所開所  
 一〇月〇江部乙防犯協会結成

七月②大谷派滝の川教会認可（現瑞光寺）。⑩滝川北郵便局設置（現黄金郵便局）

一〇月⑨町立社会病院第二棟竣工。③滝川森林事務所が併合され札幌営林区署滝川作業所と改称  
 一二月①北海道新聞社滝川支局設置。②演習軍隊駐泊、三、四八〇人。  
 一二月〇石狩川橋本橋部分架換修理。③配給機構の改定により滝川卸売市場と新十津川魚菜市场解散合併、滝川鮮魚介配給統制制を創立  
 この年、人造石油合成総合運輸開始。人石に保育所設置（ひばり保育所）。滝川救護隊解散  
**江部乙村関係**  
 五月⑬村会議員選挙。〇東一三丁目に空知支庁江部乙

苗圃創設  
六月〇本格的な学徒勤労働員が行われた

この年、農産物検査派出所を江部乙村食糧検査派出所と改称（駐在所を廃止）

昭和一八年（一九四三）

国・道関係

一月<sup>13</sup>米英音楽追放、敵国レコード回収  
四月<sup>1</sup>樺太行政、内地編入実施。<sup>1</sup>夕張・岩見沢両町に市制施行。<sup>13</sup>東京・名古屋地方に米軍機襲来。<sup>20</sup>東条内閣改組  
五月<sup>9</sup>幌別村付近米潜水艦から砲撃を受ける。<sup>21</sup>山本連合艦隊司令長官戦死発表（死亡四月）。<sup>30</sup>アツツ島守備隊全滅  
六月<sup>1</sup>改正市町村制実施、北海道一、二級町村制廃止。<sup>16</sup>国民服制特令公布  
七月<sup>1</sup>東京都制実施  
九月<sup>8</sup>イタリア無条件降伏。<sup>22</sup>一七職種に男子就業禁止、女子動員強化策発表  
十一月<sup>1</sup>農林・商工・通信・鉄道の四省を廃止、軍需・農商・運輸通信の三省設置  
一二月<sup>3</sup>青壮年国民登録改正令四五歳まで適用範囲拡大。<sup>24</sup>徴兵適齢一九歳に引下実施

滝川町関係

一月〇滝川若葉会支部（三曲）発足  
二月<sup>23</sup>滝川町国民健康保険組合認可設立  
三月<sup>1</sup>北海道中央乗合自動車（株）滝川営業所発足（滝川バス（株）を強制合同吸収）。<sup>3</sup>必勝祈願祭、大空知総進軍町民大会  
四月<sup>1</sup>第二・第三国民学校高等科併置。滝川高等女学校補習科廃止。<sup>1</sup>北海道食糧配営団滝川出張所設置（七月一日滝川支所となる）。<sup>13</sup>町長神部為蔵退職  
五月<sup>5</sup>人造石油工場一部焼失。<sup>10</sup>健民週間始まる。<sup>13</sup>町会有給町長条例の制定。<sup>22</sup>青年学校統合入校式。〇防空監視哨を警察署に移転  
六月<sup>1</sup>北郵便局新局舎完成。<sup>30</sup>滝川商工会解散、羊毛加工所廃止  
七月<sup>1</sup>保育所開所式（北滝の川）。<sup>6</sup>光暁寺太子堂に滝川託児所開設  
八月<sup>22</sup>決戦完勝大会。<sup>27</sup>庁立滝川中学校校舎屋内体操

江部乙村関係

場増築落成式。〇蛭子座を「滝川映画劇場」と改称。〇常設委員設置規程廃止、参与設置条例制定  
九月<sup>1</sup>滝川作業所を岩見沢営林区署滝川出張所と改称。<sup>12</sup>空知川出水  
一〇月<sup>1</sup>国鉄道地方自動車事務所滝川自動車区設置開業。<sup>16</sup>滝川菜花郵便局設置（現滝川駅前郵便局）  
十一月<sup>11</sup>内務省告示第六五八号により都市計画区域に決定  
一二月<sup>1</sup>戦勝祈願祭。<sup>10</sup>九代目町長斉藤昂一就任。〇滑空訓練所敷地買収調印。〇滝川国民職業指導所改造移転

昭和一九年（一九四四）

国・道関係

一月<sup>8</sup>新防空法実施。<sup>18</sup>緊急国民勤労働員方策要綱発

表

二月<sup>1</sup>小樽高等商業学校、經理専門学校に転換。<sup>5</sup>女

表

子学生戦時基準服制定。<sup>5</sup>国民登録制拡大一二歳から男子六〇歳、女子四〇歳までを徴用公布。<sup>22</sup>臨時

人口調査。㉑決戦非常時措置の高級娯楽停止、官庁の常時勤務、官吏の出張制限等実施

三月⑥全国新聞いっせいに夕刊廃止。㉒中学校の勤勞動員大綱決定通牒

四月①旅行制限実施。①第七師団司令部、旭川より帯広に移駐（熊部隊と呼称）

五月⑭国民総蹶起運動中央總會を東京日比谷公会堂で開催

六月⑯B 29北九州を空襲

七月⑯サイパン島守備軍全滅。㉓東条内閣総辞職、小磯、米内協力内閣成立。㉔学徒勤勞動員の徹底強化等決定

八月④一億総武裝閣議決定、各地に竹槍訓練実施。③台湾人徴兵制度実施

九月①北海道拓殖銀行、北海道銀行を合併。③④会社統計及び商業調査当分停止を公布

一〇月⑯満一八歳以上を兵役に編入

十一月①たばこ一人一日六本配給制実施。㉕B 29東京初空襲、京都初爆撃。㉖福券第一回抽せん

十二月⑦札幌に庁立女子医学専門学校設立

滝川町関係

昭和二〇年（一九四五）

一月⑬滝川高等女学校校舎増築落成式。⑯第二国民学校校舎増築落成式。㉗滝川高等女学校付設保育所開設。㉘薬工品増産推進支部結成。㉙町立夜間中学校後援会発会式。㉚空知勤勞動員青年研究発表大会開催（於第三国民学校）

二月⑮小樽無尽（株）が北洋無尽（株）に合併、北洋無尽（株）滝川支店と改称。㉛臨時人口調査（二二、一四四人）

三月①国民職業指導所を滝川勤勞動員署と改称。①滝川町農会、滝川産業組合解散。⑤役場日曜廃止。㉜東五丁目国費排水工事竣工式。㉝滝川町農業会発足

四月①滝川高等女学校内に看護婦講習所開設。⑦軍馬祭。㉞初の空襲警報発令

五月②警防団三部制（消防部・警護部・救護部）。⑫忠霊塔建設敷地工事開始（一の坂）

六月⑯滑空訓練所開所式。㉟献納機「滝川号」命名式（於札幌市）

七月⑰滑空訓練所第一回終了式及び第二回開所式挙

行。〇滝川町商業組合を滝川町配給統制組合に改組

八月〇幌倉地区に稔第九二六二部隊移駐屯

九月⑨滝川郵便局保険分室設置。㉡北海道滝川保健所設置（一〇月一日業務開始）。㉢滝川町立夜間中学校

認可。③町立社会病院付属看護婦講習所道庁指定。〇旭川憲兵隊滝川憲兵分駐所設置

一月①滝川通運（株）が日本通運（株）に併合され滝川支店設置。〇北海道人造石油（株）は三池石油合成（株）と尼崎人造石油（株）と合併して日本人造石油（株）を設立

一月②師団長鯉登行一中将来町  
二月⑯滝川勤勞動員署（後の職業安定所）移転改築  
この年、人造石油（株）が為徳殿、洪基館落成（昭和二七年六月廃館）

江部乙村関係

一月〇江部乙村農会、産業組合解散  
二月⑩江部乙農業会発足。㉢臨時人口調査（六、七九八人）。〇女子挺身隊組織

八月〇北海道興農公社、暗渠用土管製造工場設置  
九月⑥江部乙神社新築落成奉祝祭執行

十一月⑫北辰国民学校開校五〇周年記念式挙行  
この年、江部乙商業組合を統制組合に移行。江部乙酪農振興会設立。防空訓練・灯火管制嚴重となる。防空壕の構築奨励

五月①たばこ配給一日五本となる。⑦ドイツ無条件降伏。㉤爆撃を受け宮城炎上

六月②義勇兵役法公布、戦時緊急措置令公布。㉥B 29

国・道関係

一月⑫学童疎開一年延長。〇白金及び銀の回収実施

二月⑦小磯内閣総辞職、鈴木貫太郎内閣成立。㉦坂長

年表

官退官、内務省防空総本部次長熊谷憲一、道庁長官坪任。〇硫黄島玉碎

四月〇沖繩本島にアメリカ軍上陸

五月①たばこ配給一日五本となる。⑦ドイツ無条件降伏。㉤爆撃を受け宮城炎上

六月②義勇兵役法公布、戦時緊急措置令公布。㉥B 29

はじめて本道に侵入

七月③主食配給一割減。⑫ソ連に和平斡旋を要請。⑭ B 29二〇機及びアメリカ機動部隊艦上機延べ三〇〇機、函館・室蘭、帯広、釧路等各地空襲。⑳旅行者外食券制度実施。㉑ポツダム宣言発表

八月⑥広島に原子爆弾投下、九日長崎に。⑧ソ連対日宣戦、千島、樺太に進撃。⑩ポツダム宣言受諾決定。⑮天皇終戦の詔書放送。⑰鈴木内閣総辞職、東久邇宮内閣成立。⑲全軍に停戦示達。㉒最高戦争指導者会議、民防空等廃止、娯楽興業再開。㉓連合軍本土に進駐。㉔マッカーサー元帥着任。㉕電力制限撤廃

九月②降伏文書に調印。⑮ソ連千島領有宣言。㉗天皇、マッカーサー元帥訪問

一〇月⑨東久邇内閣総辞職、幣原内閣成立。㉘憲法問題調査委員会設立。㉙熊谷長官退官、兵庫県知事持永義夫道庁長官拝任。㉚第一回宝くじ売出す。㉛同盟通信社が解散を命じられ共同（ニュース）、時事（出版）両通信社発足

昭和二年（一九一六）

国・道関係

一月①天皇神格否定人間宣言。④総司令部が軍国主義者の官公職追放及び右翼二七団体の解散命令。⑬自由販売用たばこピース、コロナ発売。㉑マッカーサー

一二月①日本社会党、日本自由党、日本進歩党等結成。③陸・海軍省解散、第一、第二復員省開庁

一二月⑮選挙法改正（選挙権満二〇歳以上、被選挙権二五歳以上、男女平等、大選挙区制採用、北海道二選挙区、二名連記投票制）。㉑宗教団体法廃止、宗教学法人令公布

この年、占領軍の指示により日本史、地理、修身の科目授業禁止となる

滝川町関係

二月⑭旭川師団三三〇名来町幌倉駐屯。㉒夜間中学校は滝川町立中学校として認可

四月⑥社団法人日本合板検査会北海道検定所滝川分所設置

五月⑭国民義勇隊結成式

六月①岩見沢営林区署滝川出張所を滝川事務所と改称。○道林産検査所岩見沢支所滝川駐在所を北海道空知支庁滝川林産物検査員駐在所と改称  
八月①郷芳寺寺号公称。⑮終戦により各種戦時態勢を解く。㉒引揚者の受入れを開始

一〇月①滝川電話中継所業務開始。⑤進駐軍通過旭川へ向う（陸路及び汽車）。⑥滝川勤労動員署を滝川勤労署と改称。○社会党滝川地方支部結党（奈井江以北空知）。○人造石油の生産中止

一二月①夕張製作所人員整理、八日労働組合結成  
この年、一月から七月まで女子挺身隊、勤報隊等編成動員。○天候不順全国的に大凶作。○ジフテリフ、腸チフス流行

江部乙村関係

八月⑤集団疎開者（横浜方面から）一七戸入地の受入。○無縁故引揚者の受入れ開始。○戦時態勢を解く

九月⑩江部乙俳句会発足  
一二月⑩江部乙青年団再発足

この年、大凶作、都市から食糧品の買出しが多く、衣料その他生活必需品との物々交換も行われ、闇値が出始める

三月①労働組合法施行。①北海道労働委員会設置

四月⑩衆議院議員選挙。㉒幣原内閣総辞職。㉓留岡長官退官、福島県知事増田甲子七道庁長官着任  
五月①メーデー復活。③極東軍事裁判東京法廷開く。